2—383

島田三郎・安部磯雄 監輯

廓清

第三巻 第拾號

主張 社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

藝妓問題

△文明の進歩と自由權の制限……早稲田大學教授 安部磯雄

△『非酌はたぼ』論……新佛教 高島米峰

△藝妓も自覺せよ……眞新婦人會 西川文子

△藝妓論……救世軍大佐 山室軍平

△古代希臘の藝妓……早稲田大學教授 平沼淑郎

△家庭の清新を期せ……女子英學塾教授 河合道子

△國民實生活の批評……早稲田大學教授 内ケ崎作三郎

△藝妓雛妓を救へ……鐵道青年會理事 益富政助

東京 廓清會本部 發行

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

藝妓問題號（第三卷第十號）目次

△藝妓問題號發刊の辭……

△文明の進步と自由權の制限……早稻田大學教授　安部磯雄

△罪惡の策源地……番町教會牧師　綱島佳吉

△非「酌はたぼ」論……新佛教　高島米峰

△家庭を清新ならしめよ……女子英學塾教授　河合道子

△藝　妓　論……救世軍書記長官　山室軍平

△古代希臘の藝妓……早稻田大學教授　平沼淑郎

△社會のバチルス……女子大學校長　成瀨仁藏

△藝妓も自覺せよ……眞新婦人會　西川文子

△國民實生活の批評……早稻田大學教授　內ケ崎作三郎

△獨身女の藝妓觀……教育家　某女史

△藝妓雛妓を救へ……鐵道青年會理事　益富政助

△空前の模範的婦人運動……記者

△當業者は藝妓を何と觀る……藝妓屋の子、花月　女將、藝妓花子

本會に所用の方は
東京神田區美土代町三丁目三番地
廓清會本部
電話本局四九四〇番
宛に願上候

會費の納入

會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

（注意）前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名義にして廓清會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓清會費」と明記ありたし。

大正二年十月十四日納本　一部定價金六錢
大正二年十月十五日發行（每月一回十五日發行）

編輯兼發行人　神田區三河町一丁目十四番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

第三巻第十號（十月）

藝妓問題號刊行の辭

——九月廿四日開催の藝妓問題演說會開會の辭を以て之に代ふ——

廓清會の總會は此の秋の中に二種類の會合を催します計畫になつて居ります。一つは藝者の問題、一つは三面記事の問題であります。二つとも國民の精神的教育に重大なる影響あることを、吾々は認むるのであります。多分今年の中に三面記事問題演說會と云ふものを開くだらうと思ふのでありますが、今夕は藝妓問題の演說會を開くことになつたのであります。

廓清會の趣意に付いては大多數の諸君は既に御熟知の事であらうと思ひます、要するに娼妓問題ばかりで無い、公娼制度の解決を以て能事了れりとするものではない。苟も賣笑婦に關係したる問題、男女間の貞潔に關したる問題であるならば、廓清會は常に發言權を有して居るのであります。而して藝者問題は實に重大なる問題であ为、吾々は之れに對して發言して一つの大なる社會問題を提供するの權利があり、又其の位地にあることを信ずるのであります。で今夕同志の者を語らひまして、主張を述べ、諸君の賛成を希望する次第であります。（内ヶ崎）

文明の進歩と自由權の制限

廓清會副會長
早稻田大學敎授　安部磯雄

（一）春の野に立つ陽炎を追ふ當局者

徳育は無言で示せ、といふのが敎育の原則である、敎師が學生に倫理の講義をして敎育するよりも、新聞や小說の方が力があるやうに思ふ。されぱとて私は敎育家として失望してゐるのではない、倫理敎育の效果に疑を有してゐるものである、實際人は言葉にて面と向つて忠告しても中々受入るゝものではない、眼で以て半分位意識してゐる時に得る刺戟の方が遙に受取り易いのである。

近代文學と昔の文學と孰れが勝るかといふ事を、茲に論究する必要はないが、今日の文學は細かい事を實によく描寫してある、馬琴などの小說を讀んで自分の心を酷く煽られるやうな氣分になれないけれども、今日の小說は書き方が巧みなため、確に人の心を動す力を有つてゐる。で密に私は、講壇から學校で說く敎師の力と、小說などの力を比較考量して憮然たらざるを得ない。

私は二十歲からの五年間、基督主義の敎育を受けたのであるが、毎朝講堂に三四百人の生徒が集り、敎師が交々立つて話をする、一緒に讃美歌を歌ふ、祈禱をして、簡單に修養になる話をする、三十分間心をさういふ風に向けて、それから一日の勉強にかゝるやうにしてあつた。

此頃私は殆んど毎日學校に行き、八時には敎場に出るが、私の足音とともにバサ〳〵と新聞の音が始まる、時間前に皆新聞を讀でゐるのである。私共の時間前はバイブルを讀んだ、早稻田は宗敎學校でないから勿論違ひがあるけれども、恰度宗敎家が聖書を讀むやうに新聞を讀んでゐる、そして最も注目する處は三面である、無論すべての學生が三面のみを好んで讀んではゐなからうが、兎も角も俗惡な記事を以て充されたる三面を、朝の一番大切な時間に讀む、毎日々々の第一印象が卑陋俗惡なる三面記事であるといふ事は、輕々に看過し去る事が出來ない處である。

加ふるに今日の學生は、墮落せる一般社會の風俗を常に眼前に展開せられてゐる、腐敗せる空氣を吞吐せしめられてゐる、學校で一週に一度位倫理の敎育をした處で、學生の心にどれ丈の影響を及すであらうか、と云つて政府は新聞や小說に對して干涉しない譯ではない、發賣禁止などもやつてゐる、併し如何に出版物を取締るとも、事實が其儘在るならば何の效があらう、新聞記事や小說等を取締つても生きた事實たる藝妓の樣なものを放任してゐるならば、そは本末を顚倒してゐると云はねばならぬ、恰も物象が鏡に映つたと云つて、其物象の眞相を捕捉することなく、徒に鏡を撤廢せしめ破棄せしむる如き者である。而も今日の當局者は汲々として此春の野

に立つ陽炎を追にも似たる愚を繰返して飽く事を知らない。

（二）金力の横暴より起る惡影響

然らば物象の眞相とは何を意味するか、蓋し藝妓の如きは社會を墮落せしむるバチルス中の尤なるものである。若し之が人の氣付かない處に出るならば致方がない、けれども最も繁華な處に人の眼をひき、淫賣婦たる事が明白であり乍ら自働車などに打乘つて横行してゐるといふならば、もう既に社會の良心が痲痺してゐる證據で、害毒の劇甚なるに戰慄せざるを得ない、今に於て適當なる措置を講ずるなくんば、帝國の前途は寒心に堪へざるものがあらう。今日の學生にして藝妓と待合の意味を解せざるものはない、如何に善良なる家庭に人となつた者も皆心得てゐる、斯ういふ結果が社會の上に如何なる影響をもたらすであらうか。繰返して云ふが、德育は言語に非ずして行である。

若し斯かる風俗が已むを得ざる人類の一面として、何等改善の餘地がないといふならば卽ち止む、けれども這麼風俗を暗黑裡に驅逐するといふことは、警察の力一つで出來るのである、不品行を止めよ、明日から貞潔の生活に入れといふのは、それは理想であつて無理な注文であるけれども、風俗を淸めて、無垢な靑年を救ひ度いと云ふのが我々の注文である。

藝妓を社會問題として考へて見るに、一體世の中は金持と貧乏人とに分れてゐる、其金持の我儘から藝妓などいふものが出來たのである、日本の國家は賣淫を餘儀ない事實として認め、娼妓稼業なるものを許してこれを一つの邊鄙な場所に集めてゐる、中流以下はそれで差支ないとしても、上流の者は極めて我儘であつて、便宜を好むから遠方では困る、或一つの場所に限るといふ樣な窮屈を好まない、近所で出入に都合のいゝものを欲する、大臣であるならば官邸にも自由にやつて來るやうなのが欲しい、そして出來るなら一人で占領したい、といふ風に、金力を以て貪婪飽くなき慾望を逞うせんとする金持の我儘から出來てゐるものと斷言することが出來る。

斯くして今日の富豪貴族が我儘の結果は如何、不良少年といふ團體が彼處にも此處にも出來た。警察でも注意し、家庭に於ても娘があるとうつかり外出もさせられないやうな有樣である、外國にも日本の樣な意味の不良少年ある事は聞かない、中流以上の家庭から、不良少年と名稱のつく階級を生んだといふ事に就ては、社會は喫驚してゐるけれども、我々の見る處を以てすれば必然の結果である、出ないならばそれこそ不思議である。曩にもいふが如く敎育は言葉に非ずして行である。不良壯年、不良老年の跋扈してゐる現代に、不良少年の出づるに何の不思議かあらん、不良少年を怪しからぬといふならば、先づ不良老年と、不良壯年を咎めなければならぬ。貴族富豪は金力を以て、いまだ身體も碌に發達せぬもの迄壓抑的に其の節操を蹂躪してゐる、不良少年にはそれがないから腕力を以てする、不良老年は金を以て弄ぶ、そこに如何なる區別ありや、いづこに輕重の差違ありや。

（三）藝妓や待合の文字を辭書より削れ

文部大臣や内務大臣が、時々學生に向つて道德の訓話をなしてゐる。私は倫理道德を大臣の口から聞く事を甚だ滑稽に思ふ、大臣の位地にあるものが、道德の訓話を試みんとする

程ならば、何故先賢世間の風俗を改めんとはせざる、陋俗を眼前に見せつけておいて、學生の道義をいふは無益にして又滑稽である、斯ういふことは全く大臣の力で出來るではないか、文部大臣に内務大臣、警視總監あたりが寄つて行つたらすつかり取拂ふ事が出來る。德育は言語に非ず行である。我々は東京の人を一箇月の中に聖人にして了ふのではない立派な人を作りたいのは勿論であるが、それは併し遙に遠い未來の事である、我々の云ふ處は方法を變へよといふのである、從つて一箇月二箇月で出來るのである。人の前に目立つ樣に公々然行はれてゐるものを、改めて陰の暗い處に持つて行けといふのである。

藝妓の特色たる服裝の如き斷然止めさせなければならぬ。今日は良家の妻君や令孃が賣春婦の眞似をしてゐる。一國の好尙、流行が茲に發するといふ、不健全極まる社會の狀態である。我々の主張を有つ大臣であつたら、忽ちにして賣春婦が反對に良家の細君か令孃に化けなければ歩けないやうにならう、西洋あたりでも道路で會つたつて、中々これが賣春婦であるとは分らない。

家なども勿論御神燈だの、待合だのゝ名を揭げるのを止めさせねばならぬ。從來のは警察の力で壞すかどうかする、そして普通の家同樣にする、門構へなども通常に、極奥深い處で行ふならそこ迄は今日の警察權は及ばない。私共は「藝妓」といふ文字も「待合」といふ文字も辭書から取り去らなければならぬ、藝妓とか待合とかいふ文字を取除いて、國民が不快な聯想をせないやうにするのである、さうすれば不品行な人はやはりあるとも、社會全體に害毒を流すことはない。

《四》制限の可能と必要

殊に考へて貰ひたいのは、禁ずる事は出來なくとも制限する事の出來る事である、さういふ例はいくらも世の中にはある、煙草の如きも其適例である、私共の理想からいふならば禁煙にしたい、これを法律で禁ずるのは亂暴であらうが、併し制限することは出來る、例へば市内電車では喫む事は出來ぬ事になつてゐる、これなども餘程文明になつたのである、短距離の間だから强ひて喫む必要がないから、誰一人犯す者はない、汽車中などにても追々制限して禁煙車が出來る、大勢の前では喫まぬことになるであらう、制限といふ事は文明の進步と共に必要が起つて來るものである。

藝娼妓にありても、之を禁ずるのは理想であるが制限は可能である、その法令を執行するのは易々たることである、大臣は一箇月の内に立派に暗い處に追ひ込む事の出來る權能を有してゐる、而も彼等は之を實行しようとか、すまいとかいふ考すらないのである、而して國民に仁義を說き學生に道德を語る、滑稽にあらずして何ぞや。彼等は眞實に道德が解つてゐないのである、風教を論ずる資格はないのである、倫理の事をいふならば、根本に來つて制限を加へなければならぬ。併し茲に來ると一言世人の誤解を辨じて置く必要が起る。

《五》自然主義と文明思想の衝突

世間の人は動もすると、惡事をするならば陰でしても人の前でしても同じではないか、寧ろ公にやる方が罪がないといふものがある、臭い物には蓋をしろといふ諺があるけれど

も、蓋をしなくともいゝといふ考を有つてゐる者が少くない、東京市民の糞便をとつてゐる肥桶の車の如きも全體蔽を掛くべき筈である、それを臭い物は臭い方がいゝといふ考か、露出しにして一向咎むる者もない。

一體日本人は斯うした道德の行き方をしてゐる樣である。そこが所謂自然主義であらう、自然主義も或意味に於ては良い、餘り壓抑すると自然の性を發達せしむる事が出來ない。併し乍ら飯が食ひたくなれば、大道を歩いてゐても發作に從つて食ひ、衝動のまゝに動くといふ、さういふ意味の自然主義なら、それは大なる誤である、文明は或程度迄制限を加へるものである、大便なども自然主義で行くならば何處でも構はず朝鮮人のやうに大道や野天で催す儘にやる方が餘つ程自然である、玆に來ると自然主義は約めて云へば野蠻主義に外ならぬ、男女の關係の如きも、人の前で行つて構はない譯である。

何故に人はさういふ事を制限しなくてはならぬか、文明の結果である、文明は或程度迄自由を制限するものである、大便を催しても大道でやるのは我等の文明思想が許さない。

又或人は外國人の道德を述べて、基督教國といふけれども外國にも淫賣婦は澤山に居る、姦通もあれば私生兒もある、寧ろ日本よりも腐敗してゐるではないかなどゝ、大發見の積りでゐるものがある。日本と西洋と其孰れが多く腐敗してゐるかの如きは議論の要點に觸れてゐない、日本の下水より西洋の下水の方が臭ひぢやないかと云つた樣な愚論である、其麼ことは大概定つた事である、我々のいふ處は下水を道路の兩側に流すか、地下一丈の下に流すかどいふ問題である。日本は道路の兩側に下水を流してゐるが、これは土地の美觀を著しく殺ぐものである、殊に惡臭紛々として鼻を衝く、西洋の下水は地下の暗渠を流れて人の眼にも鼻にもつかない。

下水問題は實に絶好の譬喩である、賣淫婦が醜惡の者たる事を知りつゝ之を掃蕩し得ざるものなる事は、下水と彷彿たるものがある、實に止むを得ざる社會の暗黑面の產物である、然るに日本の藝娼妓の狀態は如何、目貫の場所を占有して、道路の兩側に流れてゐるといふ處を通り越して、宛ら下水の噴水を現じてゐるのである、西洋の賣淫婦は其下水の如く暗渠の中を流れてゐる、日本の賣淫婦は亦其下水の如く道路の兩側に醜態を露出してゐる、而して進んで噴水の觀を呈してゐる、支那人や朝鮮人の大便を笑ふ國民が、不品行をやる所と立派な看板を揭げて恥づるを知らない、嗚呼下水の噴水、何たる醜態ぞ。

（六）東京市の下水問題と藤綱の經濟論

此頃東京市に下水問題で大分面白い議論が持上つてゐる、而して藝娼妓と下水の譬喩が益々適切なるに一笑を禁じ得ないのである、それは市の役人は地下を掘つて將來は大便も小便も下水と共に流して了ふやうな設計を立てた、然るにそれに對して市制講究會では、東京附近の農民は大小便で生活してゐる者が澤山ある、殊に糞尿の値が一年百五十萬圓から二百萬圓する、さういふ大金を暗々泥溝の中に捨てるのは勿體ない亂暴な事だといふので、先づ農商務省に、今糞尿に代る安價な肥料があるかと問合せて見た、すると今の處大小便に代る安い肥料はないといふ答を得たので、それ見た事かと、

市制講究會は、百五十萬圓乃至二百萬圓の天物……人物を暴殄するものであると大議論を始めた。

これが如何にも娼妓や藝妓を罷けといふ從式の議論に似てゐるのである、今でこそ百五十萬圓だの二百萬圓だのと云つてゐるが、東京の人口が今の二倍になつたらどうなるであらう只でも貰ふ者はなくなる、既に今日に於ても日本橋邊りでは金を出さねばならぬ傾向を示してゐるのである、十年や十五年先には金を出さねば取つて呉れなくなるのは實に火を睹るより明である、今に東京市は糞尿を取つて貰ふ爲に二百萬三百萬の金を支出しなければならなくなる、斯うなると頗る滑稽である。

昔北條氏の世に、靑砥藤綱が十文の金を川に落した、天下の財寶を空しうするものであるといふので、十五文の松明を買つて之を拾つたといふ事がある、今日の經濟學では藤綱の經濟は經濟ではない、不經濟である、糞尿論者は迂なる哉恰も靑砥藤綱の經濟論をやつてゐるのである。

（七）藝娼妓問題解決の時期到る

藝娼妓の問題も其通り、あんな臭ひものでも下水に入れて棄てるのは惜しいといふ樣に、藝妓も交際場裡に缺く可からずと考へてゐる、どうせ物には利害がある、糞尿すら値があるが、利を見て弊を知らず、徒に泥溝の中に捨つるを惜むならば、取りも直さず糞尿論者の亞流で、社會の鼻摘みといふべきであらう。

糞尿の今日の有樣は不快を感ずる事夥しい、途中に於て屢例の車に出會ふ、風向きの惡い時など堪へ難いものである、此不快を除く爲なら年に一圓位出してもいゝ、市民の愉快不愉快でも百萬圓や二百圓の問題ではない、況んや衞生上から云つても、窒扶斯や赤痢を根絶する事が出來ないといふ危險を伴ふてゐるのである、何ぞ況んや將來二百萬圓の金を負擔する事なくして濟むではないか。

今や東京市は三千六百萬圓といふ巨額を抛つて大設計に着手せんとしてゐる、さしもに醜き東京市の下水も數年後には完成することであらう。譬喩としては離る可からざる關係を有してゐた其一つは、斯くして根本的に解決せられむとしてのである、したならば其片一方の藝娼妓も、早く鐵管內に深く收め、臭氣陋態を地上に洩さぬ樣にせなければならぬではないか。

◉東京府下藝妓密淫媒合容止處分件數

年次	總人員	密淫	媒合	容止	年次	總人員	密淫	媒合	容止
三五	三、〇四一	三	—	—	四〇	四、二五五	三〇	—	—
三六	三、〇六〇	八	一	—	四一	四、四八五	九	—	—
三七	二、七六九	七	—	—	四二	四、三〇一	三三	—	—
三八	二、九九七	五	—	—	四三	四、三一〇	四三	二	一
三九	三、五二六	—	一	—	四四	四、六一七	一六	一	二

此表によれば三十九年には一人も藝妓に戲れた者はなかつたやうである、けれ共何人かそれを信じやう。試に藝妓のお座敷數を計算して見ると、平均一日一回と見れば、一年三百六十五回で、之を四十三年の藝妓數に乘ずれば、驚く可しお座敷の總數百六十八萬五千餘回といふ巨數に上る。而して密淫の處分僅に十六である、以て當局が、殆んど全く取締をなしてゐない事を知ることが出來る。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

罪惡の策源地

廓清會評議員
番町教會牧師　綱島佳吉

○百害あつて一益なし

私は全く斯の道にかけては門外漢で、殆ど何事をも知らぬものである。然し岡目八目或は妥當の事が無いとも限らぬ。私は待合の起源に就ても更らに知らぬが、要するに待合は一つの秘密集會所で、世間の所謂紳士紳商は何事をか此所に企らみ、必ずや席に藝妓を侍べらせ、酒宴の果は性慾を逞うし、藝妓をして賣淫の罪を敢てせしむる所であると思ふ。然るに此汚はしき待合に於て世に時めく政治家は、自己が政略上の下相談を爲し、實業家は此所に商業上の取引をさへする相である。神聖なるべきビジネス、公正なるべき政策を行ふに、彼等は酒色の媒無くしては其を遂行する事が出來ないと心得て居るのであるか。常に〱待合を利用しては善い企てはし無い、此の意味に於て待合は實に現社會高等罪惡の策源地とも稱すべく、政府は何故に斯る百害あつて一益なき商賣を公然認許して居るのであるか、私は現社會に對して誠に遺憾千萬な事であると思ふと同時に、現政府に向つて甚だ怪しからぬでは無いかと言ふを憚らぬ。

○待合に代る清き倶樂部を起せ

斯く論じ來ると、其は宗教家の寢言で理想家の夢に過ぎ無いといふ人もあらうが、私とて社會の風潮人心の傾向を知らないものでは無い、社會の需要があるからこそ、都下無數の待合が堂々と門戸を張つて行く事が出來るので、今まで藝妓論を唱へなかつた社會を寧ろ不思議に思ふ次第である、是非とも之が改革とか又は全廢とかを慫慂しなければならぬと思ふ。然し直に之を全廢するといふ事は頗る至難な業で、之を全廢するとならば之に代る可きものを作らなければならぬ。斯うなつて來ると實に社會の風敎道徳上の大問題となる、熟考に熟考を要するが、私は待合の需要は現代の人情風俗に適合するやうな娯樂會場の無いのに起因し、之を現社會の一大缺點であると思ふ。此意味に於て心ある士は起りて團結し、世にも清らかなる倶樂部を建設し、此所に參會し此所に交際し、此所を企畫談合の場所とするも一法である。

○重税と嚴罰にて自然消滅せしめよ

其れと同時に盛んに政府當局に提議し、先づ法律を改正して待合の取締法を嚴にし、之に對つて重税を課し、若し不都合の所爲ある時は假借無く嚴罰する事とし、待合をして自然消滅の域に沈淪せしめるが、一番であると思ふ、此の考へは啻に理想家の夢では無く、憂國の士が團結によつて、必ず實行しなければならぬ問題である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

2－392

非「酌はたぼ」論

新佛教　高島米峰

今晩のやうな、基督教徒諸君の會合の中に、佛教徒たる私が、一人だけ交るといふのは、何か特別の理由でもあるのではあるまいか、などゝいふ疑問を起す人があるかも知れない、勿論多少の理由はある。それは、亞米利加の基督教徒は、我が同胞たる佛教徒に迫害を加へてゐる。排日問題の一部は、確にこの宗教上の、異つた色彩に對する、惡感情が含まれて居るといふことは明白な事實である、然るに日本に於ける佛教徒は、如何に基督教徒に對して寛大であるか、私の出席がそれを示すものである、――といふやうな、其麼けちな了見から出席したのではない。實は四五年前越後長岡の紳士山口政治氏夫人せい子女史が、其郷里の風紀頽癈を慨して、矯風運動を起し、態々上京して、東京では公娼廢止といふ結構な運動が起つてゐるさうであるが、更に一歩を進めて、藝妓を廢する事に御盡力が願ひたいものであるといふので、我々の同志では加藤咄堂、境野黄洋の兩君に、私、教育家では宮田脩、三輪田元道の兩君で、我々も藝妓に就ては最も頭を惱ましてゐる處であるから、及ばず乍ら御盡力致さうといふので、「風俗あらため會」といふものを起した。けれどもお互に忙しい體ではあるし、月々演説會を開いて輿論を導く事になつてはゐたもの丶、微力にして、廓清會のやうに堂々と戰陣を張つて邁進するといふ事が出來なかつた。

ところが先達て、私が上宮教會で演た講演を、『廓清』誌上に掲載された關係から、その時來訪の『廓清』記者に向つて、公娼廢止も誠に必要なことであるが、廓清會では「藝妓」を何と見らるゝか、私は藝妓問題は、公娼制度と共に容易ならぬ問題である、少くとも今日の藝妓を、文字通りの藝妓にし度いものであるといふ意味のお話をしたら、いや、それならば、此秋、廓清會では、此問題に對して、大砲を放つ事に總會で決議してゐるから、其時は是非出て貰ひ度いといふ譯、一寸口を辷らしたのが元で、すつかり言質を取られて了つた。けれども、斯ういふ問題は、宗教家として、教義の異同を問はず、お互に提携協力して努力すべき社會問題であるから、私は喜んで出席する事にした次第なのである。

（一）藝妓の墮落と男子の責任

そこで、愈々藝妓問題であるが、藝者とか娼妓といふものについて、何か言はうとすると、自然、下品な、下等な言葉を用ゐなければならない、しかし、それは、問題の然らしむる處であつて、私自身が下品だからではない。實は、私は、藝妓について多くを知らないのだ、新聞の挿繪や雜誌の口繪で、寫眞にお目にかゝるか、さもなくば、年に一回や二回、藝妓の出る宴會に招かれた時に、藝者の方からお酌をしやうと言つて近寄つて來る、けれども元來禁酒主義の實行者たる僕は、お酌して貰ふ必要もなし、たゞその姿を眺める迄の事である。そこで藝妓に對する概念は、打見た處、藝妓は美しい、少くとも、乃公の細君よりは美人だといふ位な考にしか過ぎない。

然らば、其美しい藝妓とは、何をするものであるか、妓藝を以て宴席に侍る、酒莚の興を助ける、酒を飲んで肴を食つ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

た丈ではどうも物足らぬ、三味線を彈いて歌ひ且つ舞つてお客の興を添へる道具にするのだといふ。それならば、那麼ものが果して必要なものであるか否か、在つて良いか惡いかといふ問題になる。

處が、今の藝妓は、それだけが本業でない、舞を舞ひ、三味線を彈いて興を添ふるだけではないさうである。今の藝妓は、秋波を鬻ぎ媚を賣るといふ。變なものを賣つたものである。そして藝はなくてもいゝ、容貌が美しく身體に缺點さへなければそれでいゝのであるといふことである、尤も之は、經驗を經ない事であるけれとも、先づ確な事實たさうである。さうして見ると、藝妓は實に怪しからぬものである、つまり藝妓は、公に許されてゐる藝者といふ本業の外に、更により大なる本業があるのだ、羊頭を掲げて狗肉を賣るといふ事があるが、寧ろ、藝●●頭を掲げて娼●●肉を賣るといふ方が、適當かも知れない。先づそれである。私の樣なうすぼんやりにも、正しくさうらしく思はれる、果して然らば、どういふものであるか、藝妓の癖に藝では身が立たぬといふは如何、そんな事をしていゝか惡いかの如きは明白過ぎて問題にもならぬ。たゞこゝに大に注意すべきことは、本來藝を以て宴席の興を助けて居るべき筈の藝妓をして、此くの如く、秋波を鬻ぎ、媚を賣らしむるまでに、墮落させたのは、誰の罪であるかといふことである。究竟要求するものがあるから、これに應じたのではなからうか。果して然らば藝妓を責むるより前に、まづその要求者たる、男子を責めなければならない順序となるのである。男子は實に、此問題に就て、大に責任を荷はなければならぬ。

《二》風俗と衞生と時間と經濟と

藝妓が娼婦に墮落して、風俗に如何なる影響を與へてゐるか、東京に於ける藝妓の數は、明治四十二年には三千九百何十人、約四千人であつたから、今日は五千人に達してゐやう。收入はといふと、多いのは一年三千圓以上ださうである、尤も一邊に何千圓何萬圓といふ大金をせしめるものもあるといふことだが、先づ、じみちに稼いで――藝妓にじみちもおかしいが三千圓から千圓、平均一人一ケ年の收入は千五百圓に當る。さうすると、東京だけで、一年に七百五十萬圓といふ金を捨てる愚かなる金持がある譯である、斯ういふ大なる富が、年々藝妓の爲に捨てられてゐるのである、これ經濟上の大問題ではあるまいか、近來一般に、生活難、就職難で騷いでゐるといふのに、他の一方では、斯うした矛盾がある、どうせ社會全體が矛盾に充ちてるとは云ひ乍ら、これはまたあまりに酷過ぎる、勿體ないと云つても、是れ位馬鹿げた勿體ない事は無い。

衞生上から云つても、藝妓には健康診斷がない、從つて花柳病が甚しい、門外漢たる私が恐れる位だから、專門家から見たら何の事であらう、實に由々敷大事である。殊に之に接する人々は一時、二時、三時と、流連荒亡、歸るを忘れるを常とする、貴重な時間を有害に費消して、悔ゆることを知らない。斯くして國民の元氣が、幾何殺がれてゐるであらうか、顧みて其害の大なるに驚き怖れざるを得ない。

藝妓に接する男は、獨身の者に限らず、妻あり、子ある者が甚多い、して見ると、これは一夫一婦の道德を根抵から覆

すものである。それも無敎育無智の輩なら尙忍ぶべし、藝妓を對手にする者は、中以上の敎育あり、社會に相當の地位を得て居るものが多いのであるから、其禍害や到底默止するに堪えないのである。中流以上の人達は、娼妓に對しては、餘り關係しない、昔は仙臺侯が高尾を買つたといふ噺もあるが、今は、大名華族の遊廓通ひといふことはあまり聞かない。例の伊藤博文公の如き、此道にかけては橫綱大關であつたけれども、吉原や洲崎に行つたといふ話を聞かなかつた。其他、廟堂の大官連や富豪達も、藝妓には現を拔かして居乍ら、女郎買をしたといふ樣なことは、流石の新聞紙も報道しない。即ち、藝妓は、社會の中以上に禍害を與ふる者である。換言すれば、最も國家に重要なる階級を蠱毒するものであるから、公娼以上に、國運の消長に影響する問題であるといふことになる。

《三》恐る可き哉藝妓の禍害

女は「氏なくして玉の輿」といふ事がある、どうして氏もなく敎育もなくして玉の輿に乘るか、曰く「藝妓」になるのである、藝妓になれば、玉の輿にも乘れるといふのである、盛んに媚を賣り秋波を鬻げ、そして玉の輿が來たら丸め込んで了へと、誰いふとなく日本の下層階級の間に行はれてゐる。從つて存外好んで藝妓になる無知の徒もある。藝者になつて居る間に、高位顯官富豪の輩に落籍されて、その「妾」となる。其内本妻が死んでしまへば、遂に本宅に乘り込んで、立派な何伯爵夫人、何男爵夫人と云つたやうなことになる、藝妓變じて妾となり、再轉して伯爵夫人となるに至つては、言語同斷、山の芋變じて鰻となり、雀海中に入りて蛤となつたなどいふ問題とは段が違ふ。眞に人生の一大事件である。

ところが、世の中には、「妾」がないと困る、血統を續ける爲に必要だといふものがある。私は勿論蓄妾反對論者であるが、過去の日本は、この道理なき蓄妾といふことに對して、根本的の議論をすることの出來ない不自由の國柄であつた。尤も蓄妾が惡いと言つてこれを廢すれば、今の外務大臣は出て來ないといふことになる、今の外務大臣牧野さんは、大久保甲東の妾腹の出であるから、若し妾といふものを許さなかつたら、日本帝國は此の温和な外相を得なかつた事になる、併し今日の如き國家多難の時には、牧野さんのやうな温和な外相は、寧ろ居て貰はなかつた方がいゝかも知れぬ。

日本實業界の支柱であり、最も人格の高い人として、一代の尊敬を受けて居らるゝ澁澤男爵は如何、私は忌憚なく云ふ、澁澤男は、先日廢嫡の訴訟を提起した。法廷に於て本當の嫡子を廢して了つたが、何の爲に斯うした不詳事があれ程の名家に起つたか、歸する處は「藝妓」の爲である「妾」の爲めである。嫡子といふのは亡くなつた先の細君の子である、そして妾の何某が首尾よく本妻に直つて、男爵夫人となつた、それに子が出來た、そこで先妻の子たる某を廢嫡せざるを得ぬことゝなつた。話はこれ丈で充分である、但し嫡子が、藝者に現を拔かして捨て鉢となり、この女と一所に居さへすれば、男爵も富も必要でないといふ程ののぼせ方、これが廢嫡の理由ではあるが、彼をしてこゝに到らしめたにはそこに何等かの家庭の事情が伏在して居ないであらうか、要するにこの事件の原因は「妾」と「藝妓」とである、と言つて差支あるまい。今

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

日の澁澤男は、それは立派な人である、論語講義でもして「八佾舞二於庭一、是可レ忍也、孰不レ可レ忍也。」とか何とか誠に濟したものである、しかし實子を廢嫡するのは八佾を庭に舞すところのことであるまい。思ふてこゝに至れば、藝者の害毒は、眞に戰慄すべきものではないか。

日本佛敎中、最も大なる宗派たる、眞宗――淨土眞宗の中の東本願寺の法主、大谷光演君は如何であるか、生如來樣として、田舍に行くと善男善女に拜まれる、其人がどうも甚だ困つたことである、善男善女が喜捨した淨財を以て京都の藝妓某に有頂天になつてゐるのである。餘りの事に忠告する人があると、大谷光演生如來樣は『若し藝妓と法主と兩立しないならば、法主を止める、生如來を斷る』と仰せられる。大變な譯のものだ、自然主義者の立場から云へば、實に理想的の人物である、女の爲には本願寺の法主も物かは、生如來も何のその、といふのだから大變な惚れ方だ。

光演君の父の大谷光瑩伯爵、あの人も隨分怪しからぬ方である。澤山な妾を圍つて置いて一時社會から非常の非難を受けた剛のものである、此父にして此子あり、因緣明白、不思議の事もないが、嘗て「勿體なや祖師は紙衣の九十年」などゝ裏心から信仰が溢れた句を詠まれて、世間は如何に此若き後繼者に望を屬したであらう、西本願寺の法主光瑞君は、豪傑肌で困るけれども、東本願寺の光演君は眞摯な、宗敎家らしい人である、この分で進んで往つたら、立派な宗敎家が出來るであらう、親鸞以來の光榮起らんとまで期待して居つたのに、今將た何の狀ぞ、移れば變る世の習はし乍ら、賤妓を擁して痴蝶狂蜂の醜態を盡し、生如來を抛つも敢て辭せずとするに至つたといふことは、眞に日本の宗敎界の大なる損失である。

（四）如何にして藝妓を純潔ならしむ可きか

如斯、藝妓は害毒を逞うし、而も到處に充滿して爪牙を磨しつゝあるに不拘、社會は平然として眺めて居る、やるものも惡いが、やらせる者も惡い、世の中ももう少し神經を遲鈍でないやうにしなくては困る、罪惡に對してもつと神經を鋭敏にならしめねばならぬ。之が問題である。

それでは、藝妓をどうすればいゝか、德川時代にも此問題に就ては、色々お觸れを出して骨を折つたが、餘り效果がなかつた。私が思ふには、藝妓をして藝妓たらしめるのである。藝頭を掲げて娼肉を賣しめないのである――、けれど誤つてはいけない、之は私の結論ではない、議論の道行きである、――藝妓といふものがどうしても必要であるならば、藝妓をして文字通りの藝妓たらしめよ、藝妓をして娼妓たらしむる勿れである、それならば如何にして娼妓の樣な行を禁ずるか、夫れは一度でもさういふ行ひをやつた時には、直に藝妓の鑑札を取上げて了ふのである、之が其方法の一つ、藝者を招く方の側から云へば、公の宴席會以外に呼ばぬ事にする、待合なぞで、淺酌低唱するからいけない、待合などの必要は斷じてない、待合はステーショレ丈で澤山だ、待合から苦情が出やうが、國家の爲なら已むを得ぬ、國家の爲には、命さへ捨てるではないか、待合を廢する位何でもない。

男一人と女一人とが相對し、おまけに酒といふ狂水が媒をするから事が起るが、公衆の宴席では、誰でも藝妓に巫山

戯た眞似をする譯には行かぬ、唯必要論者のいふ其必要なお酌をする丈だから間違ひが起らぬ、そして必要なりといふ其目的は達してゐるのだから、最早充分な筈である、即ち

第一、賣淫の行爲を發見次第、鑑札を取上げる事。

第二、公會の席以外に藝妓を侍せしめざること。

第三、藝者及び藝者屋に重税を課すること。

重税を課せらるれば、自然、藝者の料金（何といふ言葉がよいか一寸考へつかぬ）が高くなる、チョイと藝者を呼ぶにも、十圓二十圓といふ料金を取られるといふことになると、大抵のものは考へてしまふ。

之れで先づ藝妓をして藝妓たらしめることが出來る、併し、更に内面的に云へば、藝妓をして覺めしめる、自覺せしめる、人の人たる所以を自覺せしめるのである、さうなつて來ると、這麼問題は卽座に片がつく、此頃の女には、自覺といふ事が流行る、藝妓も女だ、彼等をして自覺せしめよ、それが一番早道である、しかし又それが一番六ケ敷い、希くば藝妓をして新しくならしめよ。

けれども、覺めたと云つても、飛んでもない行ひをする者がある、新しい女の中にも怪しからぬ實例が頻々としてある、世の中に出しやばつて、貧弱な頭で、男と戰ふのはまだ早い、今の覺めたる女達は、つまり露拂ひとして意義がある、先頭者である、斯くして續々眞の眼覺めた婦人達が輩出して來なければならぬ。女のすべてが、少くともその大部分が醒めて來るやうになれば實に結構で、藝妓も男の玩具にならぬ、彼等社會の武器たる「肱鐵砲」なるものを連發すれば、勢ひ男も避易せざるを得ぬのである。

芝居の役者は、昔は河原乞食と卑しんだものである、それが俳優となり、藝術家と變つた。堂々たる天下の文士が、我こそは何劇の技藝員だと力んでゐる、之は俳優が自覺して、氣風を改め、教育あるものがその群に投ずるに至つた結果である。昔の河原乞食は娼妓――娼男といふか何といふか、女に秋波を賣り、媚を鬻いだものだ、近來それが改まつて、藝術家といふ立派な職業になつた、藝妓も賣淫をやめて、堂々たる天下の藝術家とならなければならぬ。

《五》 藝妓も酒も健全なる社會に必要なし

併し以上は藝妓を必要としての議論である、酒を飲むには藝妓が要る、醉拂つた奴を喜ばせる爲に必要だと假定しての議論であるが、私は殘念ながら酒を飲まない。酒を飲まないからお酌の必要――藝妓の必要がない、私に必要がないといふことは、卽ち酒を飲まない人には等しく必要がないといふことだ。それならば一層の事、有害極まる酒など皆飲まぬ事にしたらいゝぢやないか、禁酒さへすればお酌の必要はない、事理明白、藝妓不必要論は此通り透徹してゐる。

酒の戰慄すべき結果を生理上にもたらす事は、禁酒演説になるから茲に説くまい、私は禁酒をして二十年、煙草をやめて十五年になる。酒は經濟上から云つても大變なものだ、晩酌に十錢の酒を一合づゝ飲む者が、日本人中（五千萬人と見て）二十分の一ありとすると、一年に九千萬圓といふ巨額の金が費消されるのである、また敷島一つづゝ吹かすものが日本人中の二十分の一あると、又九千萬圓、合せて一億八千萬圓である、日本國民の各自のポッケットが、それだけ減るの

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

である、これに氣がつかないといふのは、何といふ愚なことだ、行政整理がどうの、斯うのと云つた處で僅に三千萬圓か五千萬圓ではないか、晩酌一合ぐつと飲んでとろりとすると九千萬圓である、敷島一個すうと呑んでぱあとふかすと又た九千萬圓である、とろり、ぱあで合せて一億八千萬圓、それから前にも言つた如く、東京だけの藝妓に捨てる金が、一年約七百五十萬圓、全國の藝者の收入總額を、東京の十倍と假定して、實に七千五百萬圓、行政整理が何だ、師團增設が何だといふのだ、これ程の富を有つて居乍ら、やれ生活難だ、やれ就職難だ、勞働問題がどうの、貧民救濟が斯うのと騷いでゐる、考へると隨分馬鹿げたことである。

罪惡の陰に女あり、女の陰に酒ありである、藝妓問題は實に禁酒問題と關連してゐる、これが先決問題である。けれども、酒と女と除られては堪らぬ、せめて晩酌だけ助けて呉れといふ意氣地なしには、仕方がないから宴會を改良せよと言ふのである。そんなことを言ふと、紅葉館あたりから故障を申込まれるかも知れぬが、宴會は精養軒とか、三緣亭とか、すべて西洋料理屋でやる事である、西洋料理に藝妓の出た例を聞かぬ。藝者は出なくとも、酒を飲めば、陶然として醉ふ、醉へば飲酒の目的は達した譯である、その上に、何だ彼だと氣焰を吐いたり、管を卷いたりすれば、それでいゝだらう。酌はたゞでなくともいゝ、樽を見たゝけでは承知が出來まいけれども、一杯飲んで陶然となるに藝妓の必要はない。

以上を約言して結論を明白にすれば、藝妓も酒も共に、健全なる社會には全く必要のないものである。百歩を讓つてどうしても酒が要るなら、宴會を改良すべし。どうしても藝妓が必要なら、彼等の醜業を嚴禁して、文字通り藝術家たらしめよ。之れ風紀を振作し、國家を興隆し、共に個人の幸福を增進する所以の道である。（廓清會演說筆記）

◎東京府下待合藝妓屋及藝妓分布表

區別	待合	藝妓屋	藝妓
麴町區	五四	五	一六三
神田區	一二	二七	一六六
日本橋區	二五〇	三六九	九一四
京橋區	一七九	三四五	八八〇
芝區	八九	一二九	三四六
赤坂區	八〇	六六	一九五
四谷區	三六	四五	一六二
牛込區	五二	七九	二七四
本郷區	三九	一〇〇	二三七
下谷區	三五	七一	一二五
淺草區	一〇五	三〇〇	六三六
本所區	二五	四一	八九
深川區	五	五六	一〇二
計	九六一	一、六八二	四、一八九
郡部	四六	一六一	四二八
總計	一、〇〇七	一、八四三	四、六一七

◎東京府下待合茶屋に於ける密淫媒合容止件數

年次	待合業者	密淫	媒合	容止
三十五年	五二六	二	八	三
三十六年	五六八	—	三	二
三十七年	五九三	一	四	一
三十八年	六四四	二	一	三
三十九年	六九七	五	九	一三
四十年	七九八	九	三九	四五
四十一年	八四四	二	一二	八
四十二年	九一四	三	二二	一七
四十三年	九三二	一〇	三〇	二八
四十四年	一、〇〇七	三	七	二二

家庭を清新ならしめよ

女子英學塾教授　河合道子

私は藝者と云ふ者については何の智識もありません。又私の周圍にも之れに關して研究なさつた方は無論、其麼方面に通した人もございませぬから、藝妓と云ふ者が實際どんな事をしてるのだか、待合と云ふ處が、怎麼事をする所だか委敷聞いた事もございませんし、藝妓の出る宴會に參つた事もございません。只時々途中で其姿を見る位で、直接藝妓に關して意見を申述べるだけの材料を有たないのでございます。

併し、藝妓と云ふものが如何なわけで出來たものか存じませぬが、私の想像致しますところでは、藝妓と云ふものは人の機嫌を取る事の上手な、そして人の顏色を見るに敏く――かうしたらこの人は喜ぶだらう、かう云へばこの人は嬉しがるだらうと云ふ事を、モウ只一目見たゞけで呑込んでしまい同時に、その喜ぶ事を云ひもすれば、爲もする。卽ち人を面白く遊ばせる、非常にもてなしの上手なものだらうと思ひます。

奥様は其字の示すが如く家にばかり引込んで居られて、それ程人の機嫌をとる事が上手でありません。其もてなし振ばかりでなく、日常の身だしなみに於ても、それ程注意が行きとゞかないかと思はれます。或人が「いくら仲のいゝ夫婦でも同じやうにして朝から晩まで顏を合はして居ると、飽く時がある」と申しました。これには確かに眞理が含まれて居ます。そこで、女の方でも夫が何時見ても同じなりをして居ると何だか物足りなく感じませうが、男の方でも妻君が何時も同じ着物を同じやうに着て、髮なども亂れたまゝかき上げもしないで居るのを見ると、矢張有難くないでせう。愛さへあれば容姿はどうでもいゝと申す人もありますが、私然ばかりは申せないだらうと思ひます。外國、殊に英國人はこの點に注意して居まして男も女も其身だしなみを忘れないのでありますが、日本の家庭ではこれまでそんな方面にあまり意を用ゐて居ないやうです。で男の方は其變化を求むるため自然藝妓などのやうに美しく着かざり、そして遊んで面白い女を招んで戯れるのではありますまいか。でなくて四十も五十にもなるやうな大の男が十七や十八の少娘に戯れて面白がるなどゝは狂人か、餘程の馬鹿でない限り出來る筈でないでせう。

○平氣で藝妓を弄ぶ男も、そりや馬鹿にきまつて居ますが、これを又仕方がないとあきらめてる其奥さんも情ないではありませんか。私は日本の婦人方はモット夫の機嫌をとる事が上手になり、又之れをつとめる事が肝要だと思ひます。藝妓のやうに下卑た方面につとめよと申すのではありません、時には冗談の一つもきけ、一口話の二つ三つは知つて居て、上品に面白い相手になる事が必要です。又新らしい柿でも出た

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ら歸ると直にお皿にでも入れてすゝめるなど、こんな些細な事を申せば限りがありませんが、其些細な事がなか〳〵人の心を動かすものでございます。又、身だしなみといたしましても、――何も白粉をゴテ〳〵つけよと云ふのでありませぬが――朝の内はバタ〳〵働いて居ても夫の歸る頃には髮も結つて着物も着替へて、子供にも小ざつぱりとさせ、花など飾り、と申して何流と型にはまつた生花は私美しいと思ひません、それよりもコスモスでも咲いて居れば、それをコップに入れて卓におく、それで美しいのです。かう云ふ風に家庭の内を淸新にして行けば、男だと云つても特種の人でない限り他に變化を求めに出る必要はないだらうと思ひます。

○

私の知つてる或若い奥さんが、いつぞやかう云ふ事を云はれました。「私は夫の不在中は粗末な着物を着て、一生懸命働きます、けれども夫が歸る頃には髮を結つて着物を替へて迎へます、そして夜は決してお仕事などを持ち出しません、それは夫は大變に本を讀んだり話をしたりする事が好きですから、私も一緒に其相手をいたしますので」と、私これを聞いて大變感心いたしました。仕事があれば夫の居ない時にやつて、夫の居る時間は全く夫の相手になる、夫が緣日へでも行かうと云へば直に「ハイ」と云つて行けるやうにするがよろしうございます。「私は子供がこんなにあつて、とてもいそがしくて御相手は出來ません」とか「いゝえ私は大根をつけねばなりませんから、一人でいらして下さい」などゝ云はれたら夫なるものはどんなにつまらないかしれません。大根をつけるなど一日やそこら遲れたつていゝと思ひます。

ですが世の中には女中にさしていゝ事も、自分が手を出して、それで賢夫人だと思つてる人がありますが、私間違つた話だと思ひます。自分に大根をつけたり、ちよいとばかりの裁縫をしたりするために肝心の夫の相手になるべき事が出來なくては實につまらない事でせう。假令着物は他に縫ひに出しても夫の相手になる事をするのがほんとうだと思ひますので、この點は藝者の上手なもてなし振を上品にやる必要があらうかと存じます。

それから外國から客が來ました時など藝妓をよんで接待さする家も隨分でございますが、外國人は決して眞からそれを喜んでは居ません。それを喜ぶものなら紳士らしからぬものです。それよりも私は知合の婦人とか或は夫婦組の方など、或は日本に長く居る外國人などを招待して、會食するやうにしたらいゝかしれませぬ。

自分の家の客を藝妓の手を借りねばもてなす事の出來ぬと云ふのは情ない話でありませう。もてなす事を下卑た事の樣に考へるのは間違ひで、上品なしやれの一つも云ひ得る程でなくてはなりません。その上日本人は餘り遠慮が過ぎるやうです、外國人ですと、他に行きましてもピヤノでもオルガンでも出來る人なら、望まれさへすれば直に奏しますが、日本人は出來ても「いゝえ私などは」と尻ごみをします、其爲座が白けて窮屈で浮き立ちません。此邊はよく考へて、心得のある者は、望まれゝば快く受けて其場を賑す事に心がけねばなるまいと思ひます。かう云ふ風にして行けば、何も淸い家庭の招宴に藝妓を入れる必要はなくなるでせう、私どうしても藝妓などを家庭に入れる樣ではいけないと思ひます。（談）

藝妓論

廓清會評議員
救世軍大佐補　山室軍平

○藝妓とは何か

私は藝妓に付ては更に知らない、又知らないのを感謝してゐる位だ。「藝者ガール」といふ名は世界に知られてゐるが、私の考へでは「藝者」とは「藝をする者」の義であらう。「藝妓」の妓の字は本來賣淫の意義を含むでゐるのではあるまいか、康熙字典には「妓は女樂なり」又「古來妓あり、漢武に至つて始めて營妓を置いて以て軍士の妻なき者を待つ」とある。併し日本での「藝妓」の意は賣淫婦ではないやうである、夫れには公娼といふ制度があるから――私は我が家庭を「婦人ホーム」として動いた時に藝妓を引取つた、一人は或るミッション、スクールにゐた女の墮落したもので、大阪から連れ歸つた。一人は越中の魚津で藝妓や娼妓をしてゐたもの。又一人は作州津山で藝妓をしてゐたものであつた。最近私の手に掛つた其實例を少し擧げて見やう。

○賣淫を強ゐられる者だ

府下南千住何某(一八)といふのは四十三年五月、十五歳の時母が死んだ、本人は藝妓の美しい姿を見て藝妓になりたいといふので麹町富士見町叶家方にやつた。家計に困つた譯でないから金は要らぬ、子供の樣に愛してくれゝばーといふ條件であつたら、養女にすると云つて叶家から無理に金二百圓を呉れた。翌月から待合にやられて淫行を強ゐる、藝は教へぬ、體も成熟してゐぬから病氣となり、順天堂、赤十字社其他の醫院へ通つた。親許に泣て行けども父親は阱に陥つたのだから已むを得ぬと云つてその儘三年を過した。其後實父は後妻を娶つた。妻は氣骨あつて佛に濟まぬとて取戻さうとした。夫は本年二月のこと、戸籍調査に來た巡査に相談したら夫れでは救世軍に行けと教へてくれた。娘が自分方に泣き込んで來たので、救世軍のホームに收容した處が、養女なので頗る面倒である、そこで寺田法學士に相談の上寺田氏が交渉にいつたが却々聞入れぬ、女將も同地同業の取締であり、旦那も銀行員で勢力家だ、ついに大審院の判決例を以て嚇しつけてヤット復籍を承諾させた。此娘に就て聞て見ると、水揚と稱して六七遍も數十圓宛を主人が客からとつたといふ事である、其後女子商業學校に入れたが、女學生の中に藝妓時代を知つてゐる者があつたので止めて今は歸宅してゐる。

次に洲崎大八幡の清香事何某（二三）が肺尖カタルで病氣休業中訪ねてきた、結果廢業した、此女は昔新橋、神戸で藝妓をしてゐた事がある。第三には靜岡縣白須賀仲町内田家方千代子事何某(一九)同く、すゞ子事何某(一八)の二人が養家先から逃げて來て救世軍に來たが結局京橋警察署の手で親權者だか

らとて又養家へ返された、次には實に可哀さうな例がある。

浅草區千束町金田家の何某(一人)といふは九歳にして父を失ひ十三歳迄母てつ(四七)に養育された、十三歳の時日本橋區檜物町德藤村に賣られた、三十圓の前借で七年の年季であつた、處が直ぐに淫行を强ひられた、本人は之れを嫌つて機會があつたら廢業しやうとしたか出來ない、雇人口入業者は、物堅い藝妓屋を周旋すると云つて靴替をさせては上前をハネた、其靴替した先は日本橋區檜物町德藤村(藝名くる子)から數寄屋町(目見得中)住吉町蔦桔梗家(永三郎)茅場町玉よし(小秀)神樂坂鶴若松(小鶴)下總の古河(長松)千策町金田家(かるた)で、最後の金田家では六百五十圓の前借となつてゐるが母の手には二十圓と纏つて入つた事はなかつた、金田家では痛く健康を害して耳も少し聾になつた、自由廢業をしやうとして外出したので起訴せられた處が、警視廳の某警部、某刑事は關係者を呼出して、再び藝妓をするやうに勸告した處が本人は其氣になれぬ爲に救世軍に相談に來たのである。尤も此女には竹町の實家時代から知合の砂利商の情夫がある

○何故集娼制度の一方に散娼を認むるか

前記の例で見ても、藝妓は一人も賣淫をしない者はないとも云へるのである、藝妓の名稱は何であつても、規則の文面は何であつても、藝妓は純然たる賣淫婦である、玆に於てか私の胸に疑問が湧いた。

第一に何故公娼國に斯くの如きものを置くかといふ事である、日本は娼妓といふ集娼制度を執つてゐるのに、何故市中に藝妓といふ他の賣淫婦を散在させて置くのか、又新橋は東京の玄關であり、東京は日本の首府であるのに、此首府の玄關に藝妓が居住してゐる、又靖國神社は忠君愛國の士を祭る處であるのに其周圍に彼等が棲んでゐる、東宮御所閑院宮樣の附近に殊に多くの魔窟を存してゐる、是れは何が爲めであるか、日本は公娼を世界無比の大ピラなる制度で許し、又密娼をも世界無類の大膽極まる跋扈をさせてゐるではないか。斯くては風敎とか人道とか愛國とか言ふものは實に僞善でなくて何であるか。然り「藝妓」などいふ名の下に賣淫婦の跋扈を公許する其者が最も大なる僞善である。

第二は少女を陷るゝ者多き事實である、娼妓は規則には十六歳以上とあつたのが、明治三十三年十八歳以上と改められた、處が藝妓は十二歳からなれるのである、藝妓營業取締規則には「十二歳未滿の者は藝妓營業をなすを得ず」とある、處が前の事實の中、富士見町にゐた少女は十五歳から淫行を强ゐられ、千束町の少女は十三歳から十八歳の間に七ケ所の異る藝妓屋で賣淫をさせられてゐる。又傳へ聞く處に依れば彼等の間には、水揚げと稱して處女の節操を弄ぶを興ある事とするといふ事である。十三四歳の少女を淫行の器とし、之れを辱しむる事を許されてゐる日本人の德義心といふ者は、何處にあるか。實に慨はしい事である。

○恐しき養女制の惡用

第三は養女制度の事である、彼等は養女の名の下に二人の娘を養うて賣淫婦に仕立て上げてゐるではないか、赤坂の春本では五六十人も養女としてゐるといふ事である、一人の主人に五六十人の養女がドウして必要があるか、無論是等は親

となり子となる意志もなく唯營業上の一手段として縁組をしたのに過ぎないから民法上の養子縁組ではない。一二年前藝妓屋の養女縁組失效の訴訟があつて、大審院でも之を認めたが、サテ夫れが却々困難な事である。娼妓が自由廢業するのは唯警察署に名簿削除を乞へば濟むのであるのに、藝妓の方は其簡單な廢業さへ困難である、今日の而も凡ての養女である藝妓に、斯る裁判沙汰は到底出來得るものでない。

前に述べた實例だけでも養女の弊が充分に知られる、彼等は生殺與奪權を「養女」の名の下に買取つてゐるのである。日本では孝行を重んずる爲めに飛んだ見當違ひの孝行を養女等はしてゐるのである。其弊も斯くまで甚しいとなると、孝行といふ事も考へなければならぬではないか、大連で十三と十一になる少女が、塵箱を漁つて芋の食ひ餘しやら蜜柑の屑を拾つて食つてゐるのを見た、聞けば藝者屋の養女であつて藝を覺えぬ爲めに絶食させられてゐたのである。お前の母親はと聞くと「母は四人ある、其内のどれが本當のお母さんでせうかしら?」と言つたといふ。養女、養女、あゝ何といふ悲慘な養女であらう。

○子を賣る親を罰せよ

第四は親其ものの問題である、子を賣る親は罰せられるのではないかと或外人から云はれたが、民法第八七九條の内「親權を行ふ父、又は母は未成年の子の監護、及び敎育を爲す權利を有し義務を負ふ」といふ一條があると同時に、第八九六條には「父又は母が親權を濫用し又は著しく不行跡なる時は裁判所は子の親族、又は檢事の請求に依り其親權の喪失を宣告する事を得」とある、親は子を賣淫婦に仕立て之れを賣り、否がるものを無理に藝者たらしむる理由が、此法文に照してもドコにあるか、左樣な親は少くも親權を失ひ、進んで云へば處罰される可きではないか、而も警察の後援を得て非を遂ぐるに至つては益驚かざるを得ない。

○斷じて醜業婦を跋扈せしむる勿れ

第五は藝者を徘徊せしむる事である、藝妓營業取締規則執行心得の中にも目立つべき扮裝、藝者といふ事を表示し、又は表示すべき手段をとらしめては不可ないといふ事があるが之も行はれてゐない、橋の渡り初、外國の珍客の招待、國技館、お臺場等藝者はドン〳〵出てゐるではないか。彼等は賣淫婦であるのに其筋は賣淫婦ならずとして取扱つてゐる、其僞善を吾人は憎みたいのである。散娼と云つても我が日本程の自由を有する散娼國がドコにあるか、上は貴族、閣臣、紳士淑女より、下は一般市民の間にも、此醜業婦が其癖醜業婦扱ひにされずに大威張で徘徊してゐる。

一昨年滿鐵の一員は舍宅へ藝者が來たといふ事が新聞に出たので、其新聞の上に座して大和尚山の上で自殺したといふ藝妓がある爲めに日本國民は自殺しつゝあるのだ、家庭の命脈は斷たれてゐるのだ、國家の生命も斷たれはしまいか。

之れを要するに麻布なんどは藝妓屋の新設願どころか、何故に廢止を唱へないか、諸君は公娼をも密娼をも要せない健全なる國民とならなければならぬ、國民を斯る腐敗、汚辱より救はねばならぬ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

古代希臘の藝妓

廓清會評議員
早稻田大學教授　平沼淑郎

（一）日本の經濟的地位

我が輩は少しく變つたお話をしたいと思ふ。我が輩は早稻田大學で經濟史を講じてゐるが、それに就いて大いに感じたのは、經濟の發達が日本も歐洲も、大體に於いて同一の經路を歩んでゐることである。勿論細目に渉つて見ると相違はあるけれども、我が邦が、渺茫幾千里遠く東洋の一角に在つて、大體歐洲と同樣の軌道を踏んでゐるといふのは、誠に興味ある現象であると思ふ。

日本は、大昔の氏の制度即共産制度から轉じて大地主の制度となり、再轉して封建知行の制度となり、遂に中央集權となり、維新の大革新を經て今日に及んでゐるが、實は歐洲も同じやうな變遷を經てゐる。それならば日本は、經濟上西洋諸强と比肩するに足るかといふと、中々以てさうはいかぬ。一等國民だと云つて虚勢を張つてはゐるものゝ、實際の經濟上の地位を顧ると、五等――六等の間に介在してゐるに過ぎない。これは一見奇なる現象である。同じ方嚮を取り、同じ經路を歩んで來たものが五等六等の地位に止つてゐるといふのは一見辻褄が合はないやうである。けれども考へついて見ると、その理由がある。それは德川氏が鎖國の政策を施行したのが原因になつて、恰もその時代だけ後れてゐる。その上に足利氏の軟弱政治も累をなしてゐる。

足利時代は倭寇と云ふものがあつた。海賊が猖獗を逞しうした時期であつた。支那、朝鮮の近海は申すに及ばず、遙に馬來、印度邊までも漕ぎ出したもので、しかも組織的に、團體をなしてゐて、海賊大將軍と云ふのがあつた。之に對する足利氏の政策が經濟發展の上に蹉跌を來さしめたのである。彼等は海洋に出沒し、支那沿海の城市を攻略して明國を震撼せしめ、八幡船到ると云はば姿を見ざるに潰走するといふ狀態で、東洋史上の一偉觀たる慨があつた。然るに、惜い哉、明國の抗議に會つた室町幕府の軟弱政治は、遂にその發展を阻害し了つた。

顧つて歐洲の事情を見るに、コロンバスは果して何者であつたか。彼れは地中海の一海賊ではなかつたか。海賊の成れの果たる彼れは西班牙王の助勢を得て、遂に新大陸發見と云ふ人文史上の大事件を起したではなかつたか。西洋の海賊はかくの如くにして文運に貢獻したが、我が邦に於いてはこれに壓迫を加へて經濟發展上に一頓挫を生じたのに、かてゝ加へて德川氏三百年、鎖國の眠深うして發展は愈阻止されてしまつた。それだけ日本が後れたので、五等六等といふ地位を生じたのである。畢竟日本の政治家が、時勢の進運に應ずる政策を立て得なかつた結果に外ならぬ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

以上は經濟の上から、社會變遷の歷史を尋ねて見たのであるが、風俗の方はといふと、これは更に甚しい。八等、九等、若しくば十等と云つても過言ではないやうに思ふ。今日の日本は經濟の方から考へて見ると、英吉利がコーン・ロー穀法を撤廢するといふ少し前、また一方から云へば產業革新の少し前と同じ地位に在ると云つて然るべきである。風俗の方から云へば、希臘羅馬の腐敗した時代に彷彿たるものがある。我が輩が、風がはりなこの演題を揭げたのは、こういふ理由からである。

（二） 古代希臘の藝妓の起源

現代の日本は、羅馬や希臘の腐敗した時代に酷似してゐることがある。羅馬の事は暫く措いて、希臘にはヘテーレーと稱する藝妓兼娼妓、若くは娼妓兼藝妓何れが主でもよろしい＝かういふものがあつた。このヘテーレーと云ふものは希臘文運の最も興隆した時期に於て旭日昇天の勢で跋扈したのである。何から何までヘテーレーでなくては、夜が明けない。苟も學者政治家にしてヘテーレーと交りを結ばぬならば、それはこよなき恥辱であるとすら考へられたのであつた。それはまたどうした理由であつたか。

勿論理由なくてはかなはぬことである。當時雅典の堅氣の婦人は敎育が乏しかつた。母親から語り傳へらるゝ昔噺の外には殆ど智力上の素養がなかつた。その外には、日々の食事を賄ふ術と衣服の裁縫とそれに少しばかり音樂を習ふぐらゐのものであつて、外へ出て交際をするなどゝ云ふ事は無論なかつた。從つて夫の好伴侶として、苦樂を分ち、相談對手となり、慰籍を與ふると云ふ樣な事は到底なし得なかつた。かうした狀態は日本にもあるやに聞き及ぶ。希臘の青年は、この家庭上の缺陷からして滔々相率ゐてヘテーレーと親むに至つた。一代の大實業家、大政治家、大學者等が悉くヘテーレーと交際する、ライス、プリーン、アスパシアなどと云ふ當時の名妓の名が今も傳つてゐる。アスパシアはペリクリースの朋友＝どう云ふ朋友か知らぬが＝A Friend と書物に出てゐる。テオドータはソクラテスと問答などをした名妓である。日本なら一休と地獄太夫と云ふ格であらう。

かういふ風に第一流の學者政治家を始めとして、彼等に接することを恥としない、否寧ろ誇としてゐたといふ。これが家庭の缺陷に起因してゐた事は旣にも述べた、けれども今一つ他の理由があつた。それは希臘人の美に對する觀念である。彼等の美に對する觀念は、今日の道德家のそれとは大いに異なつてゐる、婦人美と云ふものゝ中には精神美をも含めて考ふるなどゝ云ふ觀念は希臘人には少なかつたらしい。彼等は只管形體の美に重きを置いたらしい。ヰーナスは美の本尊として彼等の最も尊崇する所であつた。この外觀の美に憧憬する希臘氣質は自然家庭以外にヘテーレーの發達を促す一因となつたのであつた。

ヘテーレーは容貌美を第一として、人に愛せられんことをこれ努めた。美術家の繪畫や彫刻のモデルは常にヘテーレーであつた。何某の公園の美人像は何處のヘテーレーであるとか、何處其處の美人畫はヘテーレー何某であると云つたやうに、いつも美術家の題材として、美の權化として取扱れた。そして何人もそれが卑しき賣春婦であることに思ひ及ばなか

つた。
　今の日本が實によくこれに似てゐるやうである。新橋と上野は東京の兩關門であるが、何れからでも一歩足を都門に踏み入れると、煙草屋の看板であるとか、藥屋の看板であるとか、すべて如何はしい女の肖像が懸つてゐる。誠にこの時代の希臘と似通つてゐる事の多いのに驚くのである。

〈三〉 希臘藝妓の境遇

かくの如くヘテーレーは旭日天に冲する勢であつたが、ヒロイック●エージにはなかつたらしく、有史時代後に大に盛になつたらしい。その大いに起つた始めは船着き場や商工業の場所であつた。コリンスと云ふ所はヘテーレーを以て有名な場所であつたが、その外にお宮に日本の巫女のやうな者が澤山ゐた。これは神前に舞を奏する外に、裡面に怪しからぬ行をしてゐて、しかもそれを商賣にしてゐた。これは日本にあつたかどうだか知らぬが、ヘテーレーの一種と見て差支のない者である。
　ヘテーレーを抱へてゐるヘテーレー屋なるものはどう云ふ種類の者であつたかと云ふと、通常の男子が主人となつてゐたのもあるが、その多くはヘテーレーの容色衰へて婆になつたものが營んでゐた。この點も日本に似てゐる所がある。また抱へ妓と云ふ者は大抵幼少の頃から、……九歳十歳十二三歳から抱主に抱へられる。多く貧民の子女で、ヘテーレー屋の主人はこれに先づ音樂を仕込む、次に愛嬌の方法‖型‖を敎へる。つまり愛嬌學の稽古をするのである。年頃になると愈ゝヘテーレーとして宴席に侍せしめられて、幼少から養育された値を償ふのである。しかし自前も澤山あつた。而してヘテーレーの境遇を概括して云つて見ると、全く想像以外で錦繡を以て包まれたる苦海であつた。その慘狀に或は日本よりも甚しくはなかつたかと思はるゝ節もあるので、畢竟奴隸に外ならぬのである。

〈四〉 黄金時代の希臘の風俗

希臘人は宴會を喜ぶ國民であつた。宴會と云つても二三人相集る小さな宴會もあるし、大勢人の集る大宴會もあるが、一體希臘人はグリーディー、フォーア、ホスピタリティーで、大から小まで御馳走になることを好んだ者が多かつた。皆接待に飢えてゐるやうな有樣であつて、飯時を覘つて朋友の家に繰込むといふ事が流行つた。
厄介なことが流行つたものである。日本にもさう云ふ人があるかどうか、それは諸君の御判斷に任せるとして、訪問を受けると食事の時分だから食事を出す、それから葡萄酒が出る。それだけでは納まらない、家庭に於ても是非その席にヘテーレーを呼ぶのが主人の義務になつてゐた。そこで愈ゝ座敷にヘテーレーが來ると、先づ御祝儀の音樂を奏する。それから後は放歌亂舞、踊つたり跳ねたり、手品をしたり逆立ちをしたりする。女が逆立ちといふと滑稽のやうだが實際逆立ちをしてゐる繪が殘つてゐるから仕方がない。また足藝のやうなこともやつてゐる圖がある。
　這麼風に朋友の家に行つてすら然りであるから、大宴會となつたらその盛や思ふべしである。ヘテーレーなくんば到底宴會は開かれない。陶器などの繪が殘つてゐるが、紳士が臨

々踉々ヘテーレーに扶けられつゝ街道を歩いてゐるのやら、街道に倒れてゐるものに水を注けてゐるのなどがある。そこへ行くと流石にプラトーンは卓絶したる偉人であつた。かうした耽溺の社會の間に在つて、或宴會の席上でヘテーレー輩の馬鹿々々しき音樂を聞いて何の興かある、速に彼等を退去せしむべしと提議した事がある。その時唯一人賛成した者があつたけれども、多數の者は無論聞入れはしなかつた。アルキビアデスといふ先生、醉歩蹣跚二三のヘテーレーに扶けられて宴席に來たといふ事が本に書いてある。アルキビアデスの如き人にして猶且つさうであつたとするならば、以下の輩に至つては推して知るべしである。以て當時の狀態を窺ふに足るのである。

《五》 希臘の衰亡と日本の危機

顧みて今日の紳士諸君のなされる狀態と比較して果して如何の感があるか。その餘りに酷似してゐるのに驚き恐れざるを得ぬであらう。何が故に恐るゝといふか。希臘の史實は吾人に何を敎へてゐるのであるか。これを道德の方面から見るに、當時の希臘は最も墮落せる時代であつた、實に希臘亡國の原因はこゝに兆されたのである。藝妓の跋扈する時代は士氣の頽廢せる時である事は、古今を通じて一である。日本の元祿時代は德川氏の士氣衰へた時ではなかつたか、德川氏三百年の榮華の夢の破たのは種々な原因もあつたらうけれど、吉原が社交の中心となつてゐたといふ事は、見遁すことの出來ない點である、妓樓の繁榮と德川氏の衰亡とは、決して引離して考ふる譯には行かぬ。希臘の文運の一番華美で輝いてゐたのは實にペリクリースの時代である。そしてこの時代こそはアスパシアなんどゝ云ふヘテーレーの跳梁を極めた時であつた。百華燎亂たるペリクリースの黃金時代は、何ぞ知らん希臘の衰運が兆し初めた時であつたのだ。燦然たりし光明の反面に、灰色の影がひた／＼と押し寄せてゐたのである。

我々はこゝに眼を注がないならば、そは眞に史を讀む術を知らぬものである。眼光の紙背に徹しないものである。殷鑑遠からず、平家の末運然りでなかつたか。德川の末運然りでなかつたか。

由是觀之、現代の我が邦が、街頭到る處妓輩の寫眞を掲げ、國民これに垂涎し、社會の木鐸たる新聞の三面は、必ず賤業婦がその一部を占有して、貞操の賣買は白晝公然行はれ、世これを怪まないと云ふならば、我輩が希臘の史實を擧げて、日本にも亡國の兆が何處にか密に潛ではゐないだらうかと、危惧するのも強ち無理ではあるまい。

本年一月の「新日本」に私は『藝妓亡國論』なるものを書いた。それがはしなくも外國の注目する處となり、獨逸のベルリーナー・ツァイトゥング紙はその大要を飜譯して、かういふ結論を掲げてゐる。‖前號の廓清に『藝妓亡國論』と共にその譯文が出てゐる。‖

平沼敎授の論述した所から推斷して見ると、現代の藝妓業は、古日本の制度が退化した爲に非難すべきものとなつたので、また藝妓制度が藝妓の身分に對して罪惡を犯してゐる事は、藝妓そのものが罪惡を犯してゐるよりも一層甚しき程度に上つてゐる、云々。

《六》須く鐵砲蟲を驅逐せよ

かくの如くにして、人文史上に異數の發展をなして、東洋の天地に燦爛たる光輝を放ちつゝある新興帝國、我日本の隆運も、一葉落ちて天下の秋を知る。希臘の黃金時代に於けるヘテーレーの跋扈がその運命の暗示者であつたとしたならば現代の如き難くに堪へたる藝妓の跳梁は、また以て亡國の端緒たる事を語るものではあるまいか。

光りが強い程影が暗いものである。草花を作つてもさうである、花なぞを見ると、蟲の卵は蕾の時からある。園藝家は蕾の時から蟲の注意をせなければならぬ。園藝家の最も恐る鐵砲蟲などは莖までも食ひ込む。香氣紛々として花が裝ひを凝らした時は、卽ち害蟲の爪牙を磨しつゝある時である。我輩は希臘が衰亡したと同じ轍を履まないやうにと云ふの婆心から、こゝに國家興亡の跡を尋ねて、敢て國民の反省を促さんとするものである。（廓淸會、藝妓問題演說會にて）

藝妓も自覺せしめよ

眞新婦人會　西川文子

先達の藝妓問題演説會には是非參りたいと思つて居りましたが、つい上る事が出來ませんでした。けれども私共の眞新婦人會の會員にも下町方面の方が大分ございまして、中には待合に居たものや藝妓をして居た人、妾上りの方などもございますので、私もこの問題に就ては、かね〴〵考へて居る事もございますのです。

○藝妓とても覺むべき時です

素よりあんなものは無くても可い、無い方がいゝと思ひますけれども、今日藝妓にでもならなければ食ふ事が出來ないと申すなら仕方がありません。又どんなに論じたところで今俄に藝妓と云ふものを全廢するのは到底出來ない事だらうと思ひます、と云つてそのまゝに捨て置くわけにも參りませぬから、私共の側より申しますと、この方面の婦人達の覺醒が必要かと思ひます。

昔は藝妓も藝妓として、藝を以て立派に立つて居ました、大名の權威にさへなびかなかつた高尾の如き名妓さへもあつたではありませぬか。それを今日の藝妓と云へば名妓と否とに係らず、客をとらぬ者は無い由です。尤も抱主だとか申して上にあるものゝ非道な强制もありませう。又今日さうしなければ藝妓は立ち行かないのだと聞きますが、こんなに醜業を兼ねなければ立てないやうにしたものゝ方にも無論罪はあるのに相違ございません。

併し今日、眞に藝のみを以て立ち、肉を賣らぬ意氣ある藝

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

妓が一人あつたとしたら如何でせう、其の人は却つて珍らしくて評判となり流行るではありますまいか、さうなれば、それとして又自分の立場を見出す事が出來るだらうと思ます。そして一人から自覺を以て立つ人がありますと、それに力づけられ、二人出で三人出で、遂には自然に大部分を廓淸する事が出來、卽藝妓をして藝妓たるの本分に立歸らしむる事も出來るではありますまいか。昔藝に依つて立つた時代には、成程肉を賣ると云へば珍らしくて流行り出し、我も我もと其方に倣つたでありませう。併し今日は藝妓と云へども覺醒しなければならない時となりました。如何に男子が誘惑するからと申しても自分がしつかりして、斷然これを拒絕するだけの意氣があつたら大丈夫ではありませんか。

○舊家の家風に學ぶ可き點がある

それについて又一つには男子の方にも少し考へていたゞきたいので、これまでのやうな眼で藝妓を見られる事なく、自己の肉慾をはなれて其藝を見、若しくは宴席の斡旋をなさしむるに止めて貰ひたいと思ひます。昔は男子が遊ぶに致しましても只今のやうに肉慾本位でなく、其藝を歎稱し、あつさりとして歸つたものださうです。して又それでなければ通でないとして笑はれたものだと聞きました。

今日でも江戶時代より二百年もつゞいて居ると云ふやうな舊家では所謂藝妓買ひなどを致しませぬ、のみならず藝妓の色を弄ぶものを目して田舍者となし、非常にいやしめる風があるさうでございます。こんなわけですから、藝妓を今日のやうに墮落せしめたのは、眞の江戶つ子でなく、地方から出

て來た、江戶つ子の所謂田舍者だと申してもよろしいので、彼等は粹も解せず、通も知らず、只下劣な肉慾を以て無上のものと考へたのでございませう。只にこう云ふ問題ばかりでなく、そんな舊家になりますと、どんないゝ身代のお孃さんでも、いつどんな境遇になるかもしれぬと云ふので、召使と共に每日椽の拭き掃除から何から爲せるそうでございまして其の子を遊ばして贅澤にさしてるのは、例の成上りものに多いと申します。私共はこの舊家なるものの家風より、大に學ぶべき點があらうと思ひます。

○男子も女子も共に醒めよ

それからまた一般に藝者とか娼妓とか云へば、一も二もなく締りのないもの、奧樣お孃樣と云へば必らず堅いもの、との樣に考へられて居ますが、必しもさうではないかもしれませぬ。藝妓などは多くの男に接し、何も承知して居て自由に撰擇する事が出來ますから、これを其心に任しておけば、つまらない者の誘惑に陷るやうな事は少く、却つて良家の娘さんなどの方が、男と交際した事もない位ですから誘惑に會へば、その人がどんな者であるかと問ふ餘裕がなく直に其掌中に陷つてしまうものが多いのだと申します。こんな事から推して考へましても、藝妓は必しも、自ら好んで誰にも彼にも應ずるものではないと云ふ事が知られるでありませう。尤も又彼等は敎育のないところから、醜業を罪惡だと思はない故もありませうが、兎も角も私は一方に男子の方々の之に對する態度を改めて貰ひ、また一方に藝妓そのものゝ覺醒を促す事が目下の急務ではなからうかと思ひます。(談)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

社會のバチルス

女子大學校長　成瀬仁藏

○必要論者は病膏肓に入れる者なり

私は藝妓屋や待合の内幕杯は一向知らぬが、少くも私の淺薄なる斯道の智識に於ては、決して現社會に必要なるものとは思はれない。或る一部の政治家とか實業家とかは待合の必要を論じて之を謳歌する者もあるが、其れは自ら墮落の淵に沈淪しつゝあるのを知らない者で、既に病の膏肓に入つた輩の言である、私は待合は確に社會を毒し、有爲の青年を害ふ魔所であつて、藝妓は現社會に寄生するバチルスであると思ふ。此のバチルス杯は社會體の病源であつて、吾等は斷じて之を根治しなければならぬ。

○病源を根本より艾除せよ

然らば此の病源を如何にして癒すか、人間の身體に病所のある時、其の局部のみを治療するのは簡單なる外科手術位に過ぎないが、内臓の病氣に至つては、如何しても根柢から治して行かなければならぬ。それと同樣に社會の健康體に深く喰込んで居る病を治療するには、待合其れ自身を破壞するやうな局部的手術では到底駄目で、先社會全體の衞生から改善して行つて、局部の病源を根本から艾除する方法を取らねばならぬ、語を換へて云へば智育德育體育の普及を計り、國民全體の能力を向上せしめ、此の國民の權威ある力によつて社會全班の健康狀態を進めて行くのであつて、斯くすれば局部の創などは自ら癒えるのである。

○敎育家宗敎家の責任

然し現今のやうに腐敗して居る社會を完全にするのは、到底一世紀や二世紀やでは出來ぬが、吾々敎育家並に宗敎家等は、一意社會の缺陷社會の害毒を研究して、飽まで之を批難攻擊し、ドブの如き待合杯は少くとも諸外國の其の如く、表面からは一切見ぬ樣に社會の最下層に突落して、穢い物は穢いものらしく暗渠の中を流れさしたいものである。(國民新聞)

◉福井縣武生町遊廓の全燒

武生町は福井市を去る五里、戸數三千五六百を有する都會であるが今回の大火にて目貫の場所八百五十餘戸を烏有に歸し、藝娼妓營業三十戸、娼妓百七人、藝妓八十人、祝融氏の禍にあつた。

福井は大阪の林歌子女史の鄉里であるから、女史は直に被害地に出張し、香川知事を訪ひ縣下婦人の聲として敎育上風儀上より斷然たる處決を乞ひ、更に新聞社に正論の援を求め、更に町長、其他の有志者を歷訪し、敎會員を督勵して大に運動劃策する處ありて歸阪せられた本部よりも雜誌數百部を送つて、[illegible]の は筆を揃へて味方して呉れるので、全滅は六ヶ敷いとしても、廓移轉する事は輿論となつてゐると同女史からの報告に接した。

同地會員及同志者の健闘を祈る。

國民實生活の批評

廓清會理事
早稲田大學教授　内ヶ崎作三郎

淫風は學生の社會にも吹き荒んでゐる、高島君は諸君を尊敬せられて、此中(聽衆)には藝妓を買ふ樣なものはあるまいと云はれたが、私は恐らくはあるだらうと思ふ、若し無ければ喜んで無禮をお詫するが、併し一人でも五人でも、十人でもあるならば、これは實に自分一個の問題ではない、國民の問題である、人類の問題である。今日の學生は實に手に負へない、私娼を買ふ、公娼を買ふ、藝妓をも買ふ、勿論中には眞面目な人もあるが、さういふ人が大多數である。日本は外國から攻められて亡びる樣な事はないけれども、中から亡びる虞れがある、我々の恐る可き頸敵は露西亞に非ず、亞米利加にあらず、實に紅裙隊である。

（一）禍なる哉呪はれたる上流社會

私は教育家として觀察して見るのに、中流以上の家庭位不良少年の多い階級はない、不良少年は英吉利にも、獨逸にも、亞米利加にも、佛蘭西にもある、併し日本のやうな身分ある者の子弟にして滔々相率ゐて陷るが如きは何處にもないのである、これは何の爲であるか、家庭の空氣が腐敗してゐるからである、家庭に於ける道德の頽廢を、子供が見習つたのに外ならぬ。

上流社會にありても腐敗は寧ろ意表の外に出づる、或る政治家として相當の尊敬を受けてゐる人が、十八九になる總領を呼んで、『お前も其年になつて藝妓も買へないやうでは、仕方がないぢやないか』と云つたさうである、實に奇怪千萬な親があつたものである、之れを堂々たる政治家の口から聞くといふ事は何といふ淺ましさであらう、然も此話は現代人の心を表現してゐるものである、果然其息子は、今は立派に浮名を流して乃父の志を空しうしなかつた。

斯うして親が不良老年の大將であるならば、子も亦不良少年の牛耳を執らざるを得ない、親が妾を置くから、子も亦處女を姦する、禍なる哉日本の上流社會、富豪社會、彼等は實に呪はれたるものである。

（二）過去の生活を葬り新生活に就け

諸君は此演說會に來て憤慨してをられるのは難有いが、併し今日大臣となり藝妓を擁して自働車を飛ばしてゐる者も、學生の時には矢張り腕を撫して時事を憤慨したものである、それが其位置に取つて代ると軟化して了ふ。細君を貰ふも一生の伴侶としてゞはない、好いた爲ではない、蔓に下つて出世したい爲に外ならぬ、やれ我輩の理想は基督であるの佛陀であるの、リンコルンであるのと云つたものが、細君を貰ふ時には其理想が粉碎されて足下に蹂躪される、そして黃金が

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

拜まれる、斯ういふ國民に支へられてゐる日本人の外交が如何にして振はれやう、斯ういふ國民を背景としては、牧野外相たらずとも、ビスマルクを以てしてもヂスレリーを以てしても誰を以てしても如何ともする事が出來ない。諸君は過去の生活を葬つて、新しい反抗の生活に入らねばならぬ。

今の青年は餘りに賢い。すぐに打算する。某會社に這入る、そこには座禪が流行る、すると哲學や基督を研究してゐたものが忽ち座禪を始める、修養の爲でも何でもない、それを手蔓に出世の緒を手繰らうとするのである。或會社では社長が靜座法を熱心に初めた、すると法學士や商業學士が皆靜座法を始める、靜座法で出世をしやうといふのである。又某銀行では謠曲が流行る、するといゝ今迄亡國の聲だの何のと罵倒してゐたものが、急にうーんと唸り出す。全く骨拔餡で、主義も主張もあつたものではない、さうしておいて日本の武士道がどうの斯うのといふ、箸にも棒にもかゝつたものではない。這麼事でどうして日本が列强の間に處して行かれやう、寒心に堪えない。

それはもう誰の生活にも過去はある、暗黒面はある、天下に義人あるなしといふのは眞實の事である、我々は過去の生活を葬つて新しい生活に就く、卽ち人生の大進化を經驗せなければならぬ。昔イエスの處に姦淫した者を引き來りて殺さんとした、其時イエスは、汝等の內罪なき者之を打て、と云はれた、其內一人減り二人去り、いつか皆何處へか行つて了つたといふことである。

（三）講談、浪花節、何たる趣味の墮落ぞ

今日の日本は、自分が散々道樂をして、それで他人を攻擊してゐるから權威がないのである。日本には其義人が少い、敎育家の內にも少いのである。私の友人が講習會の講師として某地に行つた。夜になると縣の郡視學と郡長とやつて來てこれから藝妓買に行かうと云つて頻りに誘惑する、强て斷るそれなら仕方がない、玆で一杯飮まうと、云つた樣な事であつた。今日の敎育の振はないのは尤も千萬である。至誠を以て敎育して居らぬ、晝は道義を說き倫理を講じて、夜になると藝妓買をするといふ樣な狀態で、どうして敎化が出來やう。

日本人は第一讀書をしない、やつと新聞丈讀む、それに文藝倶樂部、講談、浪花節、何といふ趣味の墮落だ。日本人は考へない國民である、だからいゝ事をしない。地方へ行くと疲弊の甚しいのを直に看取する事が出來る、進歩が遲いとしてゐる、いつ迄經つても中々進まない、此夏山陰道を巡回して晝飯を御馳走になつた時、一緖に行つた雄辯部の學生が先に行つたら、隣の座敷で半裸體の男が、其前に藝妓を座らしてお酌をさせ、何とか唸つてゐたといふ、それが白晝、午後二時頃の事である、これが實に國民の實生活である。

日本人は大國民ぢやない、經濟的には五等位の處である、精神的にも三等國位である。日本に第一政治家に如何なる人物があるが、政治家にして眞に演說が出來るものは僅に十本の指を屈する位のものであらう。それは何故である。藝妓買をやるからである、雄辯の祕訣は純潔である、今日の政治家は待合で政治をしてゐる、賣春婦に酌をさせながら實業の取引をやつてゐる、そんな事で眞の雄辯のありやうがない。日本の實業界に一人のカーネギーがありや、一人のモルガン

ありや、而して彼等は豪然として帝國の實業家なりと稱してゐる、我々國民を侮辱するも亦甚しい哉である。

《四》傳道者の覺悟を以て社會に盡せ

我々は茲で演說會を開いて何になるか、藝妓は笑つてゐやう、我々茲に集つたものは一人も殘らず種を蒔かなくてはならぬ。散じて諸君の家庭に歸る時、諸君の周圍には十人の人があらう、十人の人々は更に百人の人々に接する、我々は傳道者の覺悟を以て社會の爲に盡力しなければならぬ。我々は暗示によつて動くものである、模範によつて左右せられるものである、我々自らの尊嚴を唯持する爲には社會を潔めなければならぬ。一人潔きを誇るとも、それは價値多きものではない。今日は道樂しても教育家である、道樂しても模範的實業家であり、道樂しても大政治家でないか、淺ましい事だ。

或實業家は、藝妓には反對であるけれども、あるから買ふのだと云ふてゐる、隨分我儘な話である、藝妓を必要だといふ人よりは增しであらうが、這麽横着な考を以てゐる人も隨分あらう。これはどうしても廢せねば駄目である、公娼の如きもさうである。よく西洋にもあるぢやないかといふ人がある。併し公然許すと、祕密に行ふとは大なる徑庭がある。

抑君は第一流の藝妓に接した事があるか茶屋酒の味を知らぬ樣では話せないといふ者がある、藝妓が賢いと云つた處で高が知れてゐる、型をやるだけの事である。なる程お座敷に出ると、無學文盲で何も分らない奴が、七つ八つから型を教育されてゐるので、鼻の下の長い者を恐縮さするさうである。彼等の型なんぞ我々には一時間もかゝれば分つてしまう、知れたものだ、それを茶屋酒の味を知らなくてはなんかんと、馬鹿な理窟をつけて、細君をヒステリーにして家を外に浮れてゐる。そんな者が人間であるか、獸、動物だ。斯ういふ動物が日本の津々浦々迄うじ／＼する程ゐるのだ。藝妓問題は實に教育家、宗教家の問題である。教育調査會に樺山さんが總裁になつても藝妓を買ふうちは駄目である。

《五》歸する處は心靈問題である

要するに魂の改革である、歸する處は心靈問題である。諸君は何の爲めに生き、何の爲に食ひ、何の爲に實業に從事し何の爲に國家を組織し、何の爲に人類として生れ出でたか、そこに永遠の神祕がある。それを我々は開かうしてゐる。藝妓問題は實に道德問題であり、個人の心靈問題である。諸君の胸に手をおいて、何の爲に日本國民として、何の爲に東洋に生れ、何の爲に二十世紀に生れて居るかと考へなければならぬ。さうでないならば、よし諸君は金を得るとも、名譽を拍すとも、諸君の生活は失敗の生活と云はなければならぬ。

藝妓問題といふ卑近の問題から茲に立歸つて來る、吾人は繰返していふ、詮ずる所藝妓問題は心靈の問題であると。

『家庭と教育』の創刊　本會理事、成女高等女學校長、宮田脩氏は、現今の雜誌が悉く卑俗に流れ、若くば專門に過ぎ、一も學校と家庭の中間に在りて兩者を聯結し、教育の不足を補し、家庭の至らざるを補ふ、實際的なる雜誌なきを慨きて、起されたのが之である。內容を玆に說かないが、有益にして趣味多き雜誌たる事を推稱する(定價十五錢、日本橋本石町、養賢堂發賣)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

獨身女の藝妓觀

某女子教育家(談)

○獨身者に男女の情愛は分りません

私は獨身者でございまして尼のやうな生活を致して居りますもの故、男女の情愛などゝ申すものは少しもぞんじませぬ。從つて、さう云ふ方面に向つてはチッとも容喙する資格はないのでございます。私は只今家事科を受持つて居りますが、それでさへ家庭に入つた事のない私が家事や何かを教へると云ふ資格はないものをと考へて居ります位、況して男女の情愛などに關しましてはそれこそ一言も申す事が出來ないのでございます。

先年私が英國に居ました時、或看護婦が町に買物に行くからと申しますので私も一緒に行きました、すると夕ぐれの町の彼方の角、此方の辻に眞白にお化裝をした女がいくらも居ります、私は何の考もなく歩るいて居ますと、其看護婦が、「ごらんなさい、あそこに夜鷹が居ますよ」と、小聲で注意します。私は驚いて其眞白にお化粧をした婦人等を見ましたそして更に其看護婦に「貴女はどうしてそれが夜鷹だと云ふ事を御存じですか」と訊くと、旦那樣や奧樣などのお話で伺つてますと申します。その時私はつくぐ思ひました、私はかうして二年もこゝに居てつねに化性の婦人を見ながら、それがどんな種類の女であるか、又さう云ふ女が居るかどうかと云ふ事をさへ知らなかつた。これでは私などが外國の社會を知つたと云つても、それは社會全體の半分、三分の一、若しくは四分の一、兎も角其皮相だけであつて到底深い事は知る事が出來ないのである。と、

實に私共獨身者の知つてるのは只社會の一部分、而かも皮相の一部分――それに御交際致す方は宗教家だとか教育家だとか眞面目な方ばかりでございますから、どう云ふ理由で、そんな女が居るのだか分からないのでございます。

○藝妓など無くても良さゝうなもの

聞いて見ますと外國にも日本の藝者のやうなものは幾らも居るさうでございますが、彼國の人はそれ等の人々を非常にいやしめ、男子が之に關係する事を恥として居ます。だから日本の方々の如く會社などに出てから、「や君昨夜は失敬」だとか「昨夜は遊びに行つたよ」などゝ云ふやうな事を決して口に致さない由で、且又公娼制度はなくとも警察の監督、檢黴がよく行き屆いて居るから、惡るい病氣に感染する事は少いと申します。

そして或人々は日本では公娼があるから藝者などが淫賣をした時には之れを罪するやうにしたがいゝ、とか、又檢黴をしたがいゝとか申しますが、私はなせ、そんな事をして迄も

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

賣淫婦をおかなければならないか解りません。私共のやうな單純な考で見ますと、藝者なぞは無くてもよさそうなものだと思ひます。人道上から申すも道徳上から申しても矢張同樣かと存じます。

○藝妓の必要なる所以は何

或時私が「日本の宴會の食卓を改良したらよくはあるまいか、或外交官が外國から歸ると、宴會を丸で西洋式にされたと云ふ事もあります、さすれば藝妓などの要はなく從つて亂雜に下卑て來る處もなく上品に歡を盡す事が出來るからとの事であつたと聞きましたが、成程道理の事だと思ひます。彼方では宴會と云へば中に卓をならべて其上に花だの何だの色々美しいものを飾り主客相對して親しく談話を交しつゝ食事をする事が出來、給仕をするものは後から物を差出します、だから大きな男が金釦をつけて燕尾服でゝもいゝのです。けれども日本の宴會は、客は室の隅にくるりと座をしめて物を運ぶには前からする、面前を行つたり來たりするのだから大きな男にどん／＼されては困るし、又中央に花など飾る事も出來ませんから、自然藝妓だとか舞妓だとか花のやうに飾りたてたものの必要を感ずるのではないでせうか。さうだとすると宴會を改良すれば藝妓などの必要はないでせう」と申しますと或男の人が「藝妓の存在するのはそんな淺薄なわけぢやなく、單に彼等を宴席の飾りとするのでなく、若い女と一緒に交つてふざけながら酒を呑んだり歌つたりする内に一種の快樂があるのでせう」と、兄などは、ウッカリそんな事を云ふと笑はれるよと叱るのです。兄は全く私の無知を憐れんで、人の前で豪さうにそんな事を云つて笑はれてはいけないと思ひ注意してくれるのでございます。

○教育宗教の力にて人格を高めよ

私もそんなものか知らと思ひましたがどうして然だとは解りません。日本には立派な醫者も學者もあるのに、どうしてあんな不道徳であり又惡るい病氣の媒介者となるものを置いてあるのか知ら、これには何ぞ深い／＼わけがあるに相違ないと思ひましたから親類の醫者に行きまして、いろ／＼と訊きました。

「實は私は御存じの通りの尼のやうな生活をして居ますもので、男女間の人情と云ふものを解しませず、從つて藝娼妓は何故存在してるのだか分りません。そして眞の理由を云つて聞かせる人もありませぬから、若し私がウッカリした事を云つて笑はれるといけませぬ故どうか、ほんとのわけを聞かして下さい、折入つて御願ひします」と申しますと、その醫者は、そんなら參考のため、——獨身者に云ふべき事ではないが云つて聞かせると云ひまして、種々深い細かい理由を話してくれました。其話の内に、あんな者を廢してしまへば、壯丁の身體が弱くなる、(記者曰く、夫は醫學上謬想だといふ事です)其上慾望を制しきれない者は良家の子女を犯し一般の風儀を亂すやうになるとの事です慾望を制する事が出來ないと云へば仕方はないやうなものゝ教育や宗教の力により、人々の人格を高め、自分の慾を制する事の出來るやうにさへしたら、何も問題はなからうとおもひます。

藝妓雛妓を救へ

廓清會理事
鐵道青年會理事　益富政助

(一) 人子を買入るゝ藝妓屋

私が嘗て滿洲に於て婦人救濟會なるものを起し、氣の毒な婦人達の世話を致しつゝありし時分、一人の雛妓が私の處に飛込んで來た。僅に數へ年十三歳の少女である。娘の云ふ所によれば、そんな幼少な彼女に對してまで女將はお客をとる事を强ふるといふ、而も其外いろいろ酷い目に會はせるので「私はどうしても怺へ切れませんから助けて下さい」と云ふのである。そこで私は早速之を救助すべく盡力したが、遂に見事失敗に終つた。私は茲に此の一事件の内容を少しお話して見たい、先づ此の少女がどうして私の所などに飛込んで來て救ひを求めねばならぬやうな境遇になつたか、其根本を云へば、申すまでもなく彼女は

第一、賣れて其藝妓屋にあつたのである「賣られた」とか玉を「仕入れた」とか、丸で商品の賣買見たやうな事は新聞の上でも常に報道せられ、書く人も讀む人も通常の事だとして平氣で見過しにして居るが、是は實に「重大なる問題」である。

滿洲の片田舍に行けば子供を籠に入れて丁度大根や牛蒡を賣りにゆくやうに「子供は要りませんか子供は買ひませんか」と呼賣りをして持ち歩く、而して一人の小兒が二圓か三圓位で賣買されるのです。斯んな話をすれば誰でも「ソリャ本統か」と眼を圓くしてびつくりする、そしてこんな事が即ち滿洲人の野蠻人として賤しめらるゝ所以だと思はるゝ。

然し斯んな事は强ち滿洲にばかりあるのではない、否もつと酷い事が我日本には澤山あるのだ。斯ういふと諸君は恐らく驚いて、木曾の山中にでもそんな事があるかと耳を聳てらるゝであらうが、木曾の山中にはないですが輦轂の下、文明の光輝く帝都の中央にあるのだ、而も東洋第一の大都會を以て誇る東京の眞中で、殆ど警察官默認の下に晝となく夜となく行はるゝ人間の賣買は、滿洲のそれよりも陰險でもつと殘酷である。

(二) 貧乏だからとて許す可き事でない

第二、斯く申せばとて余は決して「人の子を買入るゝ藝妓屋女郎屋をのみ惡いといふのではない、賣り人がなければ買はうと思つても買はれはせぬ。即ち賣り人ありての買人である。其故に人身賣買は買が惡いと同時に賣が惡い、即ち如何なる理由があるにもせよ、己れの子供を藝娼妓に賣るやうな親は須らく相當に處分せられねばならぬ。少くとも娘の買人の罪を惡むと同一の程度に於て娘の賣人の罪を惡まねばならぬ。

よく「貧乏だから仕方がない」といふ事を聞く、眞に「仕方はない」のである。故に「仕方はない」として本人も諦め又社會も諦めさせるか、又他に適當なる救濟法を講せねばな

らぬ。決して「仕方のない」人をして、娘を賣る事によりて「仕方あらしめ」てはならぬ。あるポンチ繪を見た、それは若い娘を寢せておいて、其娘の臀の上にお膳を据ゑ、親爺が御馳走をたべてゐる處である、川柳子曰く『酷い親娘の臀で飯を喰ひ』と、たしかに娘の臀で飯を喰ふなどいふ了簡は、ひどい親である、人非人である、獸類だも猶且しない事である。要するに「貧乏だから娘を賣るより仕方がない」などいふは、「貧乏だから泥棒するより仕方はない」といふよりももつと大なる罪惡である。人道上の大罪人である。

人身賣買は決して「貧乏だから」位の理由で差許すべき事柄ではない、而して藝娼妓、酌婦其他人身賣買を防ぐには、藝妓屋、女郎屋、其他の人身賣買業者を嚴罰に處すると同時に、貧乏の名によりて己れの娘を賣拂ひ、他人をして嬲り殺しにさせるやうな不都合なる親を處罰せねばならぬ。貧故に一錢二錢の盗みをしてすら容赦せざる警察官が此人身賣買の非人道的行爲を等閑視するといふ事は、此上もなく不都合千萬な事であると云はねばならぬ。

（三）　誰か烏の雌雄を知らんや

第三、彼女は『女將がお客を取れと強ふる』といふた。之も多くの人は滔々たる世の濁流に卷き込まれて、矢張世間普通の平凡事のやうに看過して居るが、眞面目に考へて見れば確に法律上、人道上の大問題であると思ふ、而して斯麼事實は光り輝く帝都の中央で何れだけ多く行はれて居るか知れない、其所謂「みづあげ」なるもの何であるかを思ふ時、我等は只此世ながらの地獄を想像して戰慄せざるを得ない。刑法第百七十六條には「十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歲ニ滿タザル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲナシタル者亦同じ」とある。又第百七十七條には「暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歲以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ强姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歲ニ滿タザル婦女ヲ姦淫シタル者亦同ジ」とある、道路の右側を通行した位ですら、八ケ間敷いふ警察當局者は何故此法律上の罪人を檢擧しないであらうか、山本搜査係長のやうな機敏な名探偵が、此位の犯罪人すら檢擧し得ない筈はないのである、今少し警官各位の御活動を望まざるを得ぬ。而して强行賣淫は、單に余に救濟を訴へて來た一人の雛妓に限つた事ではない、今日の藝妓、酌婦は、都鄙を押しなべて其大部分は强行賣淫である、花月の女將さんとかは藝妓の方から進んで持ち掛けるものは一人もないといふ（一人もない事もあるまいが確に少いに相違ない）、然かも藝妓の淫賣は疑なき事實だとすれば、誰が其當の責任者──强姦の犯罪人──であらうか、花月の女將さんとやらは「お客」であるといふ。それも本統であらう、但し本統だといふのは、お客だけで外には關係者はないといふ事ではない、否大にあるのである、お客以外にある、誰であるか、いふ迄もなく女將である、待合營業者である、藝妓屋である、思ふにお客の罪と彼等の罪とを秤りに掛けて何れが重いか輕いかは容易に斷じ得られない、誰か烏の雌雄を知らんやだ、お客にばかり罪をにじり付けやうとする藝妓屋及待合は橫着である。

何れにしても余は賢明にして公正なる警察官が、此法律上の犯罪事件を等閑に附し去られざらんことを弱者に代つて嘆

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

願するものである。而して藝妓問題は又此一點を拾ひあげても、由々敷社會問題人道問題として、文明人の考究すべき必要がある。

（四）藝妓屋待合は治外法權なるか

第四、先に申した雛妓は、其他「いろ〳〵酷い目にあひました」と云つた。それは或時は三味線が下手だの踊が下手だと云つて後手にいましめ、梅の木に釣り下げられた事もあり或時は寒中に裸體にして外に逐出された。而してこんな事も彼等の社會に於ては決して珍しくない事である。若し今時小學校の教師が其生徒に對して斯樣な事を若し致したとすればどうであらう、必ずや教育家の大問題とならずには居られぬ恐らくは軍隊に於て兵士の訓練上必要のためであつても、社會は之を容赦はせぬ。又警察署が犯罪人取調の必要に出でたる事にしても、社會は承知せぬであらう。然るに一人何か故に藝妓屋だけは右の樣な亂暴も大目に見ねばならぬであらうか。

世に繼子いぢめといふ事がある、さもない事でもいろ〳〵と云ひ立てる、事實がどうだか分らぬ事でもその噂だけで直に其繼母なるものをば世間は惛むのである。なぜ十二三の娘を訓練のためといふ名の下に、後手に釣り下げたり、寒中裸にして叩き出したりするやうな藝妓屋の主人を、左まで惛くも思はないであらうか、藝妓屋と待合は今や種々の點に於て治外法權である。

（五）一家に五十人の養女は何の爲

第五、此の娘（私の所に逃げ込んで助を求めた娘）を愈々救出し、彼女の自由を保護してやらうと盡力して見て、此處に又々人道上の一問題を發見いたした。と申すのは其娘が私の手で救ひ出す事の出來ないハメに落ちて居た事である、即ち彼女は女將の養女となつて居たのである、彼女と其主人とは親子の關係であつた、既に親子である、主人は其娘に對して親權を有してゐた。而して私は他人である、他人の私が人の子供を其親の手より引取るとか、引渡すとかいふ樣な事は出來得べからざる事である、殊に娘は毫も自主の權を持たぬ幼少の身の上ではあり、處は親權萬能の日本である。果然警察官は親に對し『餘り亂暴な事はしていけないよ』位の異見を加へて解放した。そして娘は再び名ばかりの親――其實、狼のやうな女將に引渡された、私は美事に失敗して呆然として自失し、女將は勝ち誇りたる面持して娘を將て又本の檻の中にぶち込んだ。

これ等の事は東京でも又ちつとも珍しくない事である。或人が春本の萬龍の戶籍謄本を戶籍吏に要求したら、十二日間かゝつたといふ、五十人ばかりの養女をすつかり書き取らねばならぬために、そんなに長くかゝるさうだ。大抵今の藝妓は養女である。赤坂區や芝區や京橋區あたりの區役所に行つて、其戶籍簿を調べて見よ、諸君は如何に其養女なるものゝ多いかに驚かるゝであらう。

吾々は平素、貸座敷の樓主なるものが、金を以て娼妓の自由を束縛する人身賣買であつて、非人道の極みだと絶叫いたしてゐる。然るに藝妓屋の主人は、金を以て人の子を買ひ取り自由を束縛してゐるばかりでなく、堂々たる戶籍吏の手を借りて、然り區長さんや市長さんの手を借りてまで身動きの

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ならぬやうに、養女といふ鎖で以て縛りつけて了つてゐるである、然して又只この一點のみを以てしても、藝妓問題は重大なる社會問題ではあるまいか。

（六）親權を以て子に淫行を強ゆる國

而も斯くの如くにして區長市長の力を濫用して身動きのならぬやうにくゝり付け、縛りあげておいてさてどうするか、先きにも云つたやうに年端も行かぬ中から淫行を強ゆるのである。あゝ何といふ淺ましい事であるか、媒合容止といふものは、他人と他人との間さへ法律上の犯罪であるに、親子の關係になると罪も罪とならずにすむ、實に奇怪千萬といはねばならぬ。然し「親、親たらずと云へども子、子たるべし」と敎へらるゝ日本の道徳では、矢張り柔順に之れに服從せねばならぬ。「親權を以て其子に不道徳を強いながら、我も人も當然のやうに心得て居る國民は日本人ばかりだ」と江原貴族院議員は云はれた。こんな國民でも矢張り一等國だの、東洋第一の文明國だのと云つて居らるゝであらうか、云つては居らるゝであらう、然しさう信ずるものはない、ないばかりではない、笑つて居る、腹を抱へて笑つてゐる國民もある、我等は先づ此養女制度を打破らねばならぬ。

一體我國では古來親のために身賣りをする女郎藝妓を不憫に思ひ、又は感心して、自分の娘を女郎藝妓に賣り飛ばす親をば不埒な親だと惡む念慮が甚薄弱である。日本人を支那人が殺したと聞けば殺された日本人が不憫だと思ふより、先づ殺した支那人が怪しからぬと憤る、米國人が日本人を排斥すると聞けば、排斥せらるゝ日本人が可愛想だといふ感じよりも、排斥する米國人が不都合だ、不埒だといふ感じが先に立つ、然し乍ら我等が同胞の可憐なる弱者が同樣に賣買せられ牛馬のやうに虐待せられ、奴隷の樣に束縛せられ、甚しきは其親なるものからして淫行を強請せられ、婦人の生命たる貞操をば傍若無人に踏み躙られて居るのを面當り目擊し乍ら、極めて平氣で少しも其加害者を惡まうともせぬ。

我々は其被害者たる娘が不憫だと思ふより以上に、其親の不埒を惡まねばならぬ、親の爲に身を賣つた娘を親孝行だなどゝ感心することをやめて、己れのために娘を賣るやうな親の沒義道を大に制裁せなければならぬ。

若し諸君の內に自由を望んで自由を得ず、悲しんでゐる同胞姉妹（それが藝妓であらうと、雛妓であらうと、酌婦であらうと）を知らるゝならば廓淸會の本部へ御通知を願ひたい、本會は諸君と協力して彼女の救濟に力を盡すであらう。

▲『三面記事』問題大演說會

今春の本會總會は、秋季に『藝妓問題』演說會と『三面記事問題』演說會を開く事を議決した事は、會員の記憶に新なる處であらう。今や『藝妓問題』の火蓋は既に切つて放たれ、社會の視聽を聳動し、種々の方面に波及して反響を發せむとしつゝある。茲に於て吾人は更に來月下旬を以て、日々尨大なる惡影響を國民の腦裡に印しつゝある現今の『三面記事』を主題として、大演說會を開き、重大なる社會問題として講究す可きものなる事を告げ、之が廓淸を期せんとす、本會々員は奮つて來會し、吾徒が主張の貫徹に努力せられん事を熱望す。詳細は次號に於て報せん。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

藁屑となりて送るな世の中を寶玉の如く送れ世の人

寶玉となるべき人は健腦丸常に用ゆる腦の良き人

島村醫學博士有効證明

最良なる腦病神經病新藥

島村博士證明
健腦丸
TRADE MARK
KENNOGWAN

主効

◉腦病 ◉腦充血
◉腦膜炎 ◉神經痛
◉腦貧血 ◉眩暈
◉便秘 ◉中風
◉耳鳴 ◉健忘
◉搐搦 ◉頭痛
◉卒中 ◉逆上

◉健腦丸を常に少量づゝ持藥とせば逆上を引下げ、便通を心能くし、恐るべき腦充血を全治し、中風、卒中を未發に防ぎ記憶力を増進する特効あり

定價 一日分十錢、三日分廿錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分二圓

本舗

大阪市心齋橋貳丁目 丹平商會本店

東京市日本橋區箔屋町 丹平商會支店

空前の模範的婦人運動

▽長府藝妓置屋新設問題・記者

山口縣長府町に、藝妓置屋の新設運動起りたるに對し、同地婦人矯風會が奮然結束して、宛ら英國の參政權運動を面り見るが如き痛快極まる反對運動を試み、兎も角も一時延期（前號に無期延期とせしは誤）となつた事件があつた。吾人は今茲に藝妓問題號を出すに當つて、如斯模範運動の顚末を記述することの、甚有意義なるべきを思ふて、詳報する事とした。

▲事の起り　同地に藝妓置屋を設くるの議は屢々出でゝ立消の姿であつたが、形勢はいつか一變して同町の情況は設置の必要に迫まれりとなす者多く、金永某外數名の發起にて町有志者多數の贊成を得願書が提出さるゝ事となつたのが七月始であつた。そこで町當局者は直に町會の諮問に附する事となつたのであるが、何分町會議員の多數は贊成者や其株主にならうといふものであるから、形勢は刻々非にして可決疑なき有樣であつた。

▲婦人會の蹶起　之を聞知したる町會議員末永賴太郎氏夫人同地婦人矯風會長末永砂子女史は猛然として起ち前內務省技師和田義睦氏夫人文子女史等と共に反對の火の手を擧げ、町有志者を歷訪し意見を陳述して調印を求め、婦人矯風會は結束を固うして東奔西走反對の氣勢を高めんとする樣目覺しく、出願者側は始め何の女共がと冷眼視したるに、意外にも女軍の奮闘着々奏效の形跡あり、情勢は頻々として已れに非ならんとするに驚嘆し、其儀ならばと一大對抗運動を策し兩派は鎬を削つて戰ふに至り、巫山の雲は雨となるか風となるか、容易に逆睹す可からざる有樣となつた。

▲諮問會の論戰　七月十七日第一回の町會は開かれた。同地敎育家及有志者は急遽河口豐浦中學校長、横畠高等女學校長、宮本豐浦小學校長の連名を以て原田町長に宛て反對建議書を提出し。引續き桂彌一郞氏外九名、松田昌平氏外二十名、右近鐵職氏外八名及末永砂子、和田文子女史等よりの反對建議書が續々運ばれ、騷擾云はん方なく、町有志者に於ても近來になき大問題なりと早朝より傍聽に陸續として押かけ、議場は活氣橫溢し、議員は口角泡を飛ばして戰ふた。

同地大正新聞は報じて

原田議長は起つて曰く「本町近來の大問題たる藝妓置屋諮問案は、諸君の熟考を乞ふ爲去る三日配付し置きたり」と述べ、建議案を朗讀せしむ、其要旨に曰く「若し今日置屋設置許可とならば、町に對し一時三百圓を寄附し、尙揚代一本に付一厘五毛を納むる條件にて許可を望めり」云々。

といふ泥棒の上前をはぬるが如き醜陋なる條件が讀み上げられる。砂子女史の良人末永賴太郎氏は、敎育上風敎上より反對意見を述べ、昨は乃木紀念會を作り今は醜業婦の設置を議決せんとするかと其矛盾を詰り、長府は縣下の敎育地ならずやと論じ、贊成側の急先鋒豐島某は、

置屋設置が町村營即ち公營ならば考へざるべからざるも、私營は營業權である、併し敎育風俗衞生等に就て反對者と同感の點も多くあれども、乃木式より曰はゞ置屋も酒も煙草も害毒ありと雖、國庫の財源として酒煙草を存するは如何、然らば町費多端の今日、幾分にても町財源となるべきものは最歡迎する處なり、而も町制を施行せる處にして置屋の設置せられざる處なし、時世の要求は如何ともなし難し、本員は個人としては設置に反對なるも、町代表者としては輿論を重んず、諸君は長府町の風紀を何と見るや、寧ろ藝妓置屋を設置してこそ始めて現今の風紀を改善するに至らん、諸君は果して現今の狀態を改善すべき腹案を有するや、

と論理に合はざる愚論を述べ、結局五名の委員附托となつた。而して此調査委員

に就て馬關毎日は

五人中末永賴太郎、石川眞介の二氏は反對論者、豐島義介、加藤軍太郎の二氏は設置論者にして、佐々井一氏は最初設置論なりしが中頃より鼠色黨となりて天候を見つゝあり(中略)就中珍妙なるは倉重中七、熊野與右衛門氏にして、最初は熱心なる設置論者なりしが一度女軍連の襲撃に逢ふてコロリと許り寢返りを打ち云々。

▲卑劣なる威嚇　更に奇怪なるは、『贊成者側は、反對論者の素行を素破抜き、之れでも藝妓置屋に反對するか、風紀を議する資格ある乎と、遠慮會釋なくバラ撒いてグウの音も出せぬやうやつつけんと、諸種の方面に秘密探偵を放て材料を調査しつゝあり』、云々。と云が如き陋劣唾棄すべき記事がある。『爾今寄附行爲其他の諸問題につき、反對の態度を取らん。』など飽迄卑劣な威赫が新聞を利用して試みられてゐる。

▲反對運動の火の手　然るに婦人連の運動は教育家が連合して後援するに至りたる外に、更に有力なる反對者が現はれた、それは清末毛利子爵を會長とせる豐浦教育補助會で、十九日町會議事堂に本問題協議會を開き後備陸軍少將諏訪幹事長外十二三名出席し、滿場一致を以て反對建議の原案を可決し、町會議員に配付する事になつた。

▲反對演説會　婦人連は愈々力を得ると共に、反對演説會開催の必要を認め、廓清會に對して電報を以て應援を求め來りたるも、本部は寢耳に水の事とて何か何やら分らず、突嗟の事なれば辯士派遣の運びに至らなかつたが、遂に二十二日小倉市から太田醫學士、秋吉の本間俊平氏を得て夏期講演會の名の下に反對演説會を開き輿論の振作に努むる處あつた。

更に特筆すべきは基督教婦人會と佛教婦人會の提携であつて、宗派の異同を問はず手を携へて反對運動を共にするに至つたのは喜ばしい現象であつた。

▲滑稽なる贊成趣意書　於玆贊成側も數十名一樓に會して協議し、廿五、廿六の兩日大演説會を開く事、費用は何程でも出す、飽迄素志を貫かんと、藝妓置屋期成同盟會といふ破廉恥會が組織され、有志を歷訪して贊成の調印を求むる事を議決し、左の如き眞面目に反駁するさへ大人氣なき心地する贊成趣意書を撒き散らした。

(前略、長府町が甚しく淫靡なるを述べて)今にして救濟の法を講ぜずんば他日臍を噬むも及ばず、此時に當り我等は藝妓置屋を設置し、是等に向つて公私共に相當の方法を講じ適宜の取締をなし、而して長府の腐敗を一掃せんとす、元來是等は社會矯風の爲に當地矯風會が其主旨よりして該問題を唱道すべき筈なるにも關せず、是等に向つて反對を唱ふるは誠に了解に苦しむ處にして、殊に我等は婦人矯風會の名を聞く事既に久し、然れども未だ嘗て一事も目的のため其實を擧げし事を聞かず、然るに今回我等の此擧に向つて反對を唱導するとは何たる理由ぞ。

藝妓を置て風紀の振肅を期せんとするは木に緣りて魚を求むるが如きものであると反對者側は云つてゐるが、吾人を以て見れば、それ位の事ではない、鍵をかけておいても泥棒が這入るから一層の事戸を明けつ放して寢やうといふ者である。尤も味方が原の戰に負けた家康がさういふ詭計を以てほんの一時武田勢を欺いた事があるが。こせ〳〵泥棒が來て困るからと云つて、本職の泥棒を雇つて番をさせやうとするやうな者である、其愚や及ぶ可からず。而かも婦人矯風會が卒先して唱道すべきものなりと斷ずるに至つては噴飯の極、啞然として出すべき言葉を知らない。彼れは更に教育家に論及し。

(中略)學生の風儀は墮落の極に達せるにも關せず、其職にある教育家が恬として省ず、唯教育の一點張りよりして今回我等の擧に反せんとする是亦何たる狂態ぞや、彼等の行動は恰も盜賊の入らんことを怖れて前門を閉鎖すと雖、其側塀の破壞せるを知らず、愚も亦甚しといふべし。

と云ふに至つては愈々以て狂人の放言である。御身等こそ前門をのみ教育家は守れと強ひて、時々塀を乘越えるものがあるからとて後門を八文字に開かんとする者ではないか、そして教育家は開いては

いけないといふのである、而も彼等は教育家が教育の本旨を解せざる者と論じてゐる、吾人は彼等の愚論を公にする大膽さに一驚を吃すると共に、寧ろ憐憫の情に堪えない。更に最後に、

該問題を良心と良智とに訴へ大に解決せんとす。

と云ふ、御身等の口より此語を聞く、太陽が西より出でずんば天下の至幸也。

▲迫害は神の恵也　如斯にして各階級、男子と云はず、女子と云はず、全町を舉げて狂奔する樣、凄きばかりであつたと報じてゐる。

殊に耶蘇教徒の一團體の如き、義旗押立てゝ如何なる迫害も、却つて之れ神の恵みと信じ、何處迄も社會風教上の弊害を未發に防禦云々。

讀んで玆に至り深窓に育つた淑女達が深夜迄東西に奔走する樣を想見して吾人は一掬の感涙を禁じ得ないのであつた。

▲不埒なる新聞の論調　廿五日の長門新聞は

町會議員の多數が軟骨漢のお揃なることゝて、心中設置説に贊成し乍ら、常に曖昧の態度を裝ひ、殆んど旗色の鮮明を缺きつゝあるのみならず、細君の手前世間體に於て、設置説に味方するは外聞惡しとする世紀遲れが、一面設置者側に於ける勢力を鈍らし居れり。

輿論の指導者社會の木鐸たる各新聞が筆を揃へて反對運動を嘲罵し、贊成側の見苦しき提灯持をなせるは、實に奇怪千萬の事にて、吾人は其人格を疑ひ、事理を解せざるに驚く者である、見よ彼等は

▲學校の在る所に藝妓を置いてならぬとならば、日本全國藝妓を全廢せねばならぬ▲自體藝妓を置いて生徒の風儀を氣遣ふなどは教育家の權威のないのを自白する樣なものだ▲嬶左衛門等の采配の下に兵兒垂れては、男の一分が立たぬ、云々。

と暴言を吐いてゐる。吾人をして云はしむれば、藝妓を排斥するに敢て教育地たる事を要しない。だから日本全國廢さうとするのだ、少くとも文字通りの藝妓にしたいといふのだ、少くとも賣淫は下水が地下に流るべきやう、密に罪惡として行はれなければならぬといふのだ。只教育地であれば一層其必要を感ずるといふのである、英國の牛津の樣に、或は近く早稻田が附近の魔窟を掃蕩した樣に。

嬶左衛門云々、男の一分が云々といふに至つては、婦人を奴隷視し、其人格を認めざる頑冥不靈の議論で、度す可からざるものである。

▲意外なる風説　而して更に彼等は示威運動の爲か、某校長及び野原中學教諭等が、教育家の身を以て自治に容喙するは不埒なり責任を問はんなど、排斥運動が起つたと傳へてゐる、奇怪な事ではあるが贊成運動をする位の者に、教育を論ずる資格があらう筈はない、斯かる良教育家を有する長府の父兄は其子弟の爲に感謝すべきである、吾人は教育の本旨から尊い犧牲の問題に上らんとした兩君に敬意を表す。

▲大舉傍聽の壯觀　關ケ原は愈々來た。婦人連は大舉して町會の傍聽に押し寄せた。以て議員を牽制しやうとするのである。町會始まつて以來の騷動である。否眞にこれ本邦空前の壯觀ではないか。見よ深緑の夏の森に萬朶の櫻が一時に咲いたやうではないか大正政變には白薔薇をつけない者は愚民に毆られた、正邪に關らず輿論といふ者は恐しいものである。英國參政權運動の戰闘派の總帥パンカースト女史、否廢娼運動のバトラー夫人たる末永砂子和田文子女史以下結束して議員を監視した。贊成側も勿論議場を睥睨してゐる。紅綠參差、紫藍相交り、殺氣は場に充ち、恐しきばかりの光景であつた。併も議事は極めて平凡であつた、長府下關間道路完成迄延期(一年餘り)といふ事に落着して了つた。

一時の急を遁た丈は確に成功である。

吾人は其勞を謹んで感謝すると共に、小康を得て氣を緩めず、最後の勝利を熱望する。(本項に付和田義睦君野原休一兩君に深謝す)

當業者は藝妓を何と觀る

▲藝妓屋側から

芝藝者屋の子

私は貴會の藝妓問題を熱心に聞いた、が山室さんの說には賛成する事が出來無い、救世軍の名にも似ぬ依怙な御說だと思ふ、そこへ行くと矢張米峰さんの方が好い、公平である、私は、芝の藝妓屋の倅です、

私は出來得べくば、父兄に藝妓屋を廢めて貰ひたい、と思つて居ます、が、私の家では廢めると云ふ譯に行かぬと見えます、だから切めては一般の同業者と異つた營業振をして吳れと言つて居るのです、私に妹が三人あります、一人は既に藝妓になつて居りますが不器量なので藝を充分習はせて兎に角藝でやつて居ります、收入の點へ行つたら美しい無藝の女に勝つ事は出來ません、馬鹿な話しでせう、それでも何とか云ふ客があるさうです、で、私はあとの二人は成るべく藝妓にせぬ樣と常に兩親に申して居ります。

私は何時も藝者の事を猫だの狐だのと云ふ奴を見ると面へ痰を吐き懸てやりたくなる、此麼奴に限つて裏町の小待合へ行つて女將と共謀して弱い女を値切倒して三圓か四圓の端た金で調子の合はない藝妓を買つてるのだ、序に云つて置くが江戸ッ子は藝妓を買ふとは云はない、揚げると云つて居る、詐り百姓とは目的が違つてるからである、江戸ッ子は藝妓を揚げて一座開けば濟むからだ、又藝者屋の軒下へ御神燈を吊つて置くと若い者が謀叛が起ると云つて是を廢させた御役人樣は何うだらう、矢張安藝妓屋の長火鉢の前に禿頭を光らせ乍ら色男ぶつて居るのだらうと思ふ。

藝妓た御心配なさるよりエス樣の御力で金モールの服許り光らせて君子ぶつても江戸の裏店の八さん熊さんにも劣つた田舍出の御役人樣に藝者は酒席の酌だけをする者であると云ふ事と夫れと最少し獸性の發揮を御愼みなさる樣に御說きになる事を願ひます、慥に今の藝者はサノサ節二つ三つで堂々と渡れるのだから妙だ、それは高島先生の云ふ通り男がしたのだす。

私の家の隣は待合です、が三味線を彈ける藝者はたんとありません、たまに來ると客の方で騷々しいから止めろと云つて止めてます、これは無論藝者を買ひに來たのです、私は一日同業の家に行つた、と、鏡臺の上に婦人倶樂部の新しいのがあつた、殊勝な女があると思つて持主を物色しました、若し藝者であつたら代りの本位やらうと思つたからです、處が皆惡い事でも見付けられたやうに、私では無い／＼と祕してました、滑稽じやありませんか、此頃文學藝者なんて云ふのが八方に出ますが此の身を拔いて女子大學へでも入れてやうらなんと云ふ客はありますまい、其は面白い奴だ、一度買つて見やうと斯う云ふ者が九分です、

▲罪は男にある

新橋 花月女將

外國人の間に日本名物として數へられて居るものが四つあります、第一に富士、第二に日光、第三にゲイシヤ、ガール、第四に人力車です、私の大體の話は藝者は決して廢するに及ばないといふ事に決着します、私が考へて見まするに日本の藝者は西洋の密淫賣婦と女優との間をいつてゐるやうです、一枚の紙にし表と裏はありますやうに一つの國でも裏表があります、例へば佛蘭西の如き美術國として知られてゐますが夫れは表面の話で實は淫賣國です、佛國では旅の人の金を取る事許り考へてゐるやうですが或はこれが國是かも知れません、私共が旅行した時の如き人間と犬と見るに忍びないやうな事をして公衆に見せて金を儲けてゐます、又英國は紳士國だと云はれてゐますが御覽なさい淫賣婦を滅さうともしなければ又禁じもせず處分もしないではありませんか、獨逸でも規律の正しい軍隊國ですが行つて御覽なさい、夜遊びは内々獎勵するやうな傾向のある事を發見されますから、要するに國には裏表があつて一概に先進國がドウのコウのと云へませんが、外國ではうまく淫賣婦などが利用されてゐるのです、まア外に現はれない下水といつた形ですね。

日本の藝者は或は先生達が仰せらるゝやうに淫賣をしてゐるかも知れません、若し淫賣をしてゐるのなら夫れは表でなくて裏です、人間の露を發いたら際限がないぢやありませんか、先生方のお話に依りますと藝者は秋波を送るから不可ないと仰せられます、然し秋波は女の誰もが持つてゐるもので外國などでは秋波ごころか夫婦づれでも隣の細君に靴の音や肘指などで秋波を送つてゐるぢやありませんか、夫れがひどいから驚くのです、私のやうな出しや張ものが驚く位ですから全く誰でも驚きませうよ、成程日本でも藝妓は秋波を送りませう又媚も賣りませう、然し私は藝妓が自分から進んで媚を賣り肉を賣つた話を聞いた事がございません私も隨分永く此商賣をしてゐますが藝妓が

無理に肉の押賣をしたといふ事を聞きません、さア題はこゝです要するに罪は男に在る譯で藝者も無論しつかりしなければなりませんが此問題を解決しますには男も餘程覺醒するか若くは時代を改造しなければ駄目でせう

それから待合の廢止といふ問題です、成程先生達が申されるやうに待合は停車場以外には不要かも知れません、翻つて考へますと待合が若し無くなつたらドウなるでせう、此點も是非先生方の御一考を煩はしたい事だと思ひます、若し待合が廢止されるとなると外國の淫賣婦や女優の跋扈してゐるやうにホテルに男を伴込んで風俗を亂したり又は自宅を立派な而も堂々たる淫賣宿にするやうな事にはなりますまいか、ドウも待合は自然の要求だから仕方がないやうに思はれます、更に又先生方に申したいのは秋波を送るとか媚を賣るとか非難されますが藝者でも戀をしますといふ事を御承知置きを願ひます、戀は飽く迄自由です、藝者だつて戀をするのを抑壓する事は出來ますまい、秋波と媚とを直に金の爲め！と受取られるのは困ります秋波や媚の中にも美くしい戀があるかも知れませんから。

更に私が氣強く思ひますのは外國人は日本の所謂ゲイシヤ、ガールを淫賣婦のやうに思つてゐない事です吉原――即ちゲイシヤ、ガールと誤解してゐる下級な外國人ならイザ知らず外國で紳士淑女と云はれる人は藝者を淫賣婦とは思つてゐません、現に昨夜も西洋婦人が三人私共の店に見えました、見ず知らずのお客樣です、而して御料理も食べずに日本の藝者の踊を見たいから見せてくれと仰せられます、西洋の方には日本の舞踊といふものは非常に喜ばれますから――そして踊を賑やかに見物されて滿足氣に心地よくお歸りになりました、西洋の婦人は藝者を淫賣婦として此ゲイシヤ、ダンスを見られたのでせう私は決してさうではないと信じます、要するに藝者を責むるより男自身から少し改造してお出でなさい、藝者は又日本の名物として廢す必要はないといふに歸着するのでございます。

▲親のためです

「茶を作る家」　藝妓　花子

これは目下帝劇で開演中の公衆劇團の「茶を作る家」の藝妓お花(河合の役)の科白である。お花の兄は女學校の經營者である、お花は父の爲め家の爲め再び身を賣つて三千圓の金を調達して此事を父にも兄にも知らせずに又もや新橋に戻らうとする女である。

「兄さん貴兄は今藝妓の事を大變惡く仰言ましたがね藝者にも一からキリまでありますよ成程藝者の中にも自分の我儘がしたかつたり唯目の前の榮耀がしたりしてうかうか其日を送つてゐる人もあります、然し大抵は自分から望んで自分の節操を賣つてゐるのぢやありません、みんな涙の上に白粉を塗つて酒と一緒に苦い涙を呑み込んでゐるのです、然し左樣までしてもあんな商賣をして居なければならないのは何の爲めでせう親の爲めです、義理の爲めです、境遇の爲めです『七年前に私を欺した男が又私に歸つてきました、今では文部省の内でも幅の利く偉い身分になつてゐる人なんで『其人は私が新橋一流の藝者だとか文學藝者だとか云れてゐるのを見て又玩弄にする氣になつたのです』『もとの主人へ手紙を出しましたこれ〳〵で親の爲めにモ一度稼ぎたい、せめて千五百圓貸して貰ひたいといふ手紙を出しました』兄さん私達の社會にもあなた方の社會には分らない一種の道德がありますよ、三年前に私が禮奉公まで勤め上げた時に、五百圓の金と看板を分けて呉たもとの主人は、一行の文句も書かずに默つて二千圓の小切手を送つてよこしてくれました、私共のやつてる事は醜業かもしれません、犬猫に劣る事かも知れません、併し教育のあるあなたの奥さんのやうに、一旦こゝの家政を扶けると、大きな事を云つてゐ乍ら十日や二十日で辛抱が出來なくなり、又遠くへ逃げて行くやうなケチな了見は持ちません」

◉雜誌「第三帝國」出づ(主盟茅原華山 主任石田友治)

「第一の帝國は靈の帝國、第二の帝國は肉の帝國、第三の帝國は靈肉一致の帝國なりとは、是れ泰西に於ける先達の理想なり。日本に於ては猛烈なる肉の要求は是より始まる、深刻なる靈の煩悶も亦固より是より始まる、舊日本の總ての物は新なる日本の生活と何等交渉なきのみならず、之あるが爲めに吾人は動もすれば寸進尺退せざるを得ず、吾人は明に白す、吾人は「大日本主義」に非ず、吾人は實に「小日本主義」を把持するものなり、故に吾人は帝國主義に反對す、故に吾人は個性中心主義を主張す、吾人は武力を藉りて平面的に發展するを以て、國民を枯稿憔悴に導くものなりと知る、吾人は平面的に發展するの前に、先づ立體的に發展せざるべからず。吾人は小日本主義なり、然れども「大日本人主義」なり、大なる日本人が自ら創造し建設したる大なる日本帝國にあらずんば、決して内容の充實を期する能はず。」云々といふ壯烈な意氣を以て生れた。(定價十錢、巢鴨駒込、内外出版協會發賣)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

—THE NANKOIN HOSPITAL—

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2·

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番(病院用)
八九八番(自宅用)

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ 二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處先般歸朝す

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）

修容は婦德の第一步
端正の精神は端正の容儀に宿る、
常にクラブ洗粉を用ゐて氣高き素顔の美を増されよ
朝夕クラブ白粉を用ゐて床しき薄化粧を整へられよ
毎朝クラブ齒磨を用ゐて口齒を淨め精神を爽かにせられよ
斯くして信仰深き御身の品位と健康とを保ち給ふべし

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番(病院用)
八九八番(自宅用)

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ 二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處先般歸朝す

(明治四十四年八月一日第三種郵便物認可)

修容は婦徳の第一步
端正の精神は端正の容儀に宿る、
常にクラブ洗粉を用ゐて氣高き素顏の美を增されよ
朝夕クラブ白粉を用ゐて床しき薄化粧を整へられよ
毎朝クラブ歯磨を用ゐて口歯を浄め精神を爽かにせられよ
斯くして信仰深き御身の品位と健康とを保ち給ふべし

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY